

山 梨 県 北 杜 市

KUROSAWA-SITE

黒沢遺跡 第1・2次調査

個人住宅建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告

2005.3

山梨県北杜市教育委員会

山 梨 県 北 杜 市

KUROSAWA-SITE

黒沢遺跡 第1・2次調査

個人住宅建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告

2005.3

山梨県北杜市教育委員会

例　　言

1. 本書は、1997・1998（平成9・10）年に実施した山梨県北杜市武川町（調査当時、北巨摩郡武川村）黒沢字下原地内に所在する黒沢遺跡の発掘調査報告書である。
2. 本遺跡の現地発掘調査期間は以下のとおりである。
第1次 1997年12月1日～1998年3月17日
第2次 1998年4月30日～1998年9月1日
3. 発掘調査は、個人住宅建設に伴う事前調査であり、（旧）東京不動産より委託を受けて当時の武川村教育委員会が直當で実施したものである。
4. 発掘調査は竹田眞人・三宮健が担当し、本書の執筆・編集は坂口広太が行った。
5. 発掘調査において空中写真撮影は株式会社フジテクノに委託した。
6. 遺物の写真撮影は佐野輝が行った。
7. 石器の石材鑑定は村松佳幸が行った。
8. 本書に関わる出土品及び記録図面・写真等は北杜市教育委員会にて保管している。
9. 本遺跡の調査及び報告書作成に際し、旧北巨摩市町村担当者会の皆様をはじめ多くの方々にご指導、ご教示を賜った。遺漏のあることをおそれ、あえてご芳名を列挙しないが、改めて感謝申し上げたい。
10. 発掘調査及び整理作業参加者
雨宮明子、石原すみえ、井手研二、井手正美、遠藤実千代、小畠忠雄、川崎東洋雄、栗原ますみ、園分聰、小林慎子、猿田定雄、清水泰倫、鈴木照香、鈴木みづじ、高野和彦、千葉毅、筒井つや子、長尾宗史、畠山己幸、平林美保、眞岡真理子、矢野容子、山中敏夫、溝口よし子（敬称略、五十音順）

凡　　例

1. 揭載した地図は、国土地理院発行5万分の1地形図「北峰」と旧武川村役場発行5千分の1平面図1を使用した。
2. 揭載した遺構・遺物の縮尺は、原則として次のとおりである。
(遺構) 調査区全体図1/150、竪穴住居跡1/60・1/40、炉跡1/20、土坑1/30
(遺物) 上器1/4・1/2、土偶1/3、石器1/1、石匙他 小型石製品1/2、その他石製品1/3
3. 遺構断面図中ポイントの数値は標高を示す。
4. 遺構覆土色・土器胎土色等は『新版標準土色帳』財團法人日本色彩研究所に拠った。
5. 住居跡平面図における柱穴内の数値は基準床面レベルからの深さ(cm)である。

目 次

例言・凡例	
目次・挿図目次・表目次・写真図版目次	
第1章 調査の経緯と概要	1
1. 調査に至る経緯	1
2. 調査の概要	1
第2章 遺跡周辺の環境	1
1. 地理的環境	1
2. 歴史的環境	1・2
第3章 発見された遺構と遺物	2
1. 基本層序	2
2. 遺構と遺物	2・4
第4章 調査の成果と課題	4
《参考文献》	4

挿 図 目 次

第1図 北杜市武川町遺跡分布図	5
第2図 黒沢遺跡周辺図(七・調査区位置図)下	6
第3図 調査区全体図	7
第4図 1号住居跡・2号住居跡・3号住居跡	8
第5図 5号住居跡	9
第6図 6号住居跡・7号住居跡	10
第7図 8号住居跡・9・10号住居跡	11
第8図 1～9号土坑	12
第9図 1号住居跡出土遺物	13
第10図 1号住居跡・2号住居跡出土遺物	14
第11図 2号住居跡・3号住居跡・4号住居跡出土遺物	15
第12図 4号住居跡・5号住居跡出土遺物	16
第13図 5号住居跡出土遺物	17
第14図 5号住居跡出土遺物	18
第15図 5号住居跡出土遺物	19
第16図 5号住居跡出土遺物	20
第17図 5号住居跡・6号住居跡・7号住居跡出土遺物	21
第18図 7号住居跡出土遺物	22
第19図 8号住居跡・9・10号住居跡出土遺物	23
第20図 9・10号住居跡・遺構外出土遺物	24
第21図 遺構外出土遺物	25
第22図 遺構外出土遺物	26

表 日 次

第1表 土坑一覧表	3
第2表 土器觀察表	27
第3表 石器觀察表	28・29
第4表 土製品觀察表	29
第5表 遺構別土器一覧	30
第6表 遺構別石器一覧	31

写真図版目次

図版1 黒沢遺跡調査区遠景(東から)	33
図版2 黒沢遺跡調査区近景(東から)	33
図版3 第1次調査風景	34
図版4 1号住居跡遺物出土状況	34
図版5 1号住居跡完掘状況	34
図版6 2号住居跡完掘状況	34
図版7 3号住居跡完掘状況	34
図版8 第2次調査風景	34
図版9 5号住居跡遺物出土状況	34
図版10 土偶左足出土状況(5号件)	34
図版11 5号住居跡完掘状況	35
図版12 5号住居跡炉跡半截状況	35
図版13 6号住居跡(敷石住居跡)検出状況	35
図版14 6号住居跡埋甕検出状況	35
図版15 6号住居跡堀り方検出状況	35
図版16 6号住居跡炉跡奥砂利検出状況①	36
図版17 6号住居跡炉跡奥砂利検出状況②	36
図版18 7号住居跡遺物出土状況	36
図版19 7号住居跡完掘状況	36
図版20 8号住居跡遺物出土状況	36
図版21 8号住居跡完掘状況	36
図版22 9・10号住居跡完掘状況	36
図版23 磁形土器出土状況(9・10号住)	36
図版24 前期前半の上器①	37
図版25 前期前半の土器②	37
図版26 前期前半の土器③	37
図版27 出土土製品	37
図版28 中期中業の土器	38
図版29 中期後半の土器	38
図版30 山土石器①	39
図版31 山土石器②	39
図版32 出土石器③	40
図版33 出土石器④	40

第1章 調査の経緯と概要

1. 調査に至る経緯

第1次調査

平成9年8月、南東宮不動産から武川村（現北杜市武川町）黒沢字下原1716-4-1725-1-1726-7番地の個人住宅建設に関して事前協議が武川村教育委員会にあった。村教委は当該計画地が周知の埋蔵文化財包蔵地内であるため文化財保護法に基づく届出が必要である旨回答した。これを受け同年9月1日、南東宮不動産から県教育委員会教育長宛に埋蔵文化財発掘の届出があり、村教委は12月2日より試掘調査を実施するに至った。試掘調査の結果、3箇所で住居跡と思しき落ち込みが確認されたため発掘調査を行った。降雪等により作業の行えない日もあったため、調査が終了したのは翌年の3月17日であった。調査後は継続して整理作業を行い、平成17年3月31日に終了した。

第2次調査

平成10年4月、1次同様南東宮不動産から武川村黒沢字下原1723-1-1723-2番地の個人住宅建設に関して事前協議があり、村教委は当該計画地が周知の埋蔵文化財包蔵地内であるため文化財保護法に基づく届出が必要である旨回答した。これを受け同年4月20日、南東宮不動産から県教育委員会教育長宛に埋蔵文化財発掘の届出があった。当該地は1次調査地に隣接しており、遺構が密に存在することが予想されたため、本調査を実施するに至った。調査期間は4月30日から9月1日である。調査後は継続して整理作業を行い、平成17年3月31日に終了した。

2. 調査の概要

1次調査は工区の任意の地点にトレーンチA~Eを設定し、個別遺構が確認された箇所のみ本発掘調査を行った。

2次調査は1次の調査結果から遺構の存在が予想されたため、最初から工区全面の表土剥ぎを行った。

1次・2次ともに調査面積が比較的狭かったため、グリッド杭は打たず、任意に杭を數本打ち、光波測量機や平板を据える基準点として使用した。表土剥ぎは基本的に重機で行い、遺物が出上した面から人力で掘り下げた。遺物の取り上げは原則的に光波測量機で行い、遺構は平板及び簡易量り方による手実測で同化した。また調査の状況に応じて写真撮影を行った。

調査の結果、縄文時代前期前半・中期中葉・中期後半の遺構が検出された。なお調査終了後に周辺の表面採集を試みたところ、周知の埋蔵文化財包蔵地外からも上器を拾うことができたため、包蔵地範囲を若干修正した。

第2章 遺跡周辺の環境

1. 地理的環境

北杜市武川町は、山梨県の北西部に位置し、西端は鳳凰山を境に南アルプス市、北端は中山・尾白川・大武川を境に白州町、東端は釜無川を境に長坂町及び須玉町、南端は小武川を境に並崎市というようにそれぞれの市町村と接している。

甲斐駒ヶ岳盆地の鶴山を源とする釜無川は、南アルプスと呼ばれる赤石山脈の前角である巨摩山地の東縁とは平行して南北に流下している。八ヶ岳火山の爆発によって噴出した火山堆積物を浸食し続けた結果、「七星ヶ岩」と呼ばれる高さ50~100mにもおよぶ急崖を形成し、この急崖は白州町の国界橋から並崎市まで距離にして約30kmも続いている。この地域は、フォッサ・マグナの西縁にあたり、糸魚川一静岡地質構造線が釜無川・富士川とほぼ平行して南北に縱走し、この大断層とそれに直行するいくつかの小断層が、この地域の急峻な地形をつくりだしている。

町内の北端を流下する大武川は仙水沢を源とし、武川町牧原付近で釜無川と合流する。その標高差は約1,700mで全國でも有数な急勾配の河川で、その他石空川、黒沢川、小武川など釜無川の支流となる河川も、概して急勾配の河川である。その中でも大武川は、急勾配のため浸食・運搬作用が著しく、昭和34年の第7号台風などでは牧原地区を中心に大規模な土石流に襲われている。これらの大小河川がいくたびかの氾濫を繰り返し、形成されてきた河岸段丘や沖積扇状地は、現在では良質の米などをつくりだす耕地として広く利用されている。

本遺跡は武川町黒沢字下原地内に所在している。現在山高・黒沢集落がある大武川右岸、高位段丘面の東端に立地し、標高は約550mを測る。同段丘面は本遺跡周辺において緩やかに南東に傾斜するが、調査地はその中でも比較的平坦な地形である。長年畠地として利用され、長イモやゴボウなどの深耕作物が栽培されていた。

2. 歴史的環境

武川町は釜無川の支流、大武川・小武川・黒沢川・石空川など多くの河川が流れている。それらの河川によって形成された河岸段丘や沖積扇状地上には縄文時代から歴史時代まで多くの遺跡が確認されており、真原A遺跡・向原遺跡・宮御田遺跡等いくつかの遺跡で発掘調査が行われている。

律令体制下において本町域は甲斐國巨麻郡に属し、『和名類聚抄』にみえる“真衣郷”的に比定されている。郷名の“真衣”は“牧”を意味し、7~8世紀にお

ける甲斐国の代表的な牧場地帯であったと想われる。その後真衣野牧は官牧となり、「延喜式」によれば、「柏前御牧」と合わせ、毎年30疋の馬を献じていたといふ。

県営開拓整備事業に伴い、昭和60・61年度にかけて行われた官房川遺跡の発掘調査では、町内でも最大規模の平安集落址が発見された。検出された遺構は、堅穴住居跡94軒（うち3軒には小鍛冶遺構が伴う）、掘立柱住居跡45棟、土坑269基である。住居数が最も増加する時期は9世紀末から10世紀の前半である。該期は文献上にみる「駒衆」の行事が最も安定して行われていた時期と重なる。また、「牧口」と書かれた須恵器片や、銅製帶飾り金具の還方など特殊な遺物も出土しており、本集落が營まれた背景には御牧の存在が想定されている。

黒沢遺跡は平成元年に行われた分布調査で縄文時代・中世の遺物散布地であることが確認されていた。遺跡周辺には実原A遺跡・実原B遺跡・山高遺跡・東原A遺跡など縄文時代を中心とした遺跡が数多く存在している。東原A遺跡では縄文時代草創期と思われる有舌尖頭器が表而採集されている。実原A遺跡では平成2年度神代公園建設事業に伴い発掘調査が行われた。縄文時代中期の住居跡が10軒発見され、深鉢形土器を中心に五領ヶ台式期の良好な資料を得ている。

第3章 発見された遺構と遺物

1. 基本層序

調査区内の基本層序は単純である。1層として黒色の耕作土がある。その下に黒褐色の2層があり、主に縄文時代前期・中期の遺物が出土している。3層は黄褐色土で住居跡や土坑の落ち込みは本層上面で確認された。現地表面から遺構確認面までの深さは25~40cmである。長年農地として利用されていたため、耕作による攪乱が著しく、場所によっては住居跡の床面にまで掘削が及んでいた。

2. 遺構と遺物

1次では堅穴住居跡が3軒、2次では堅穴住居跡が6軒、散石住居跡が1軒、土坑が44基発見されている。遺構番号は1次からの通し番号とした。以下発見された主要な遺構・遺物について述べていく。

(1) 住居跡

1号住居跡（第4図・第9図）

（位置）1次調査区Cトレンチに所在。（規模）西壁側半分が調査区外に存在し、擾乱も著しく不明。

（形状）梢円形。（壁高）45.1cmを測る。（重複）なし。（ピット）3本検出。（床面）広い範囲にトレンチャーが及ぶ。ほぼ平坦。（炉）地床炉状の遺構

が床面ほぼ中央に位置。一端に河原石敷設。もとは石開いた炉か。（遺物）覆土上層から下層にまとまって出土。（時期）縄文時代中期中葉。

2号住居跡（第4図・第10図・第11図）

（位置）1次調査区Eトレンチに所在。（規模）長軸5.8m、短軸5.5mを測る。（形状）梢円形。（壁高）19.6cmを測る。（重複）なし。（ピット）3本検出。（床面）広い範囲にトレンチャーが及んでいる。ほぼ平坦。（炉）地床炉状の遺構が床面ほぼ中央に位置。（遺物）覆土上層から下層にかけて散見される程度。（時期）縄文時代前期前半。

3号住居跡（第4図・第11図）

（位置）1次調査Cトレンチに所在。（規模）長軸3.6m、短軸3.4mを測る。（形状）不整円形。（壁高）46.4cmを測る。（重複）なし。（ピット）3本検出。（床面）一部にトレンチャーが及ぶ。ほぼ平坦。（炉）地床炉状の遺構が床面ほぼ中央に位置。（遺物）覆土上層から中層にかけて散見される程度。（時期）縄文時代前期前半。

4号住居跡（第3図・第11図・第12図）

黒褐色土中に遺構が構築されており、掘込みが確認できなかったため、規模・形状は不明。遺物が多く、出土範囲にもまとまりが伺えたため、調査区全体圖に住居の推定範囲を示した。

（位置）2次調査北側東側に所在。（重複）なし。（ピット）1~3号土坑が柱穴か。（床面）不明。（炉）なし。（遺物）覆土中層？にまとまって出土。（時期）縄文時代中期中葉。

5号住居跡（第5図・第12図～第17図）

（位置）2次調査区北側中央に所在。（規模）長軸5.3m、短軸4.7mを測る。（形状）不整円形。（壁高）14.1cmを測る。（重複）なし。（ピット）大小様々などピット21本検出。ピット1~6・8・9・13が主柱穴と思われるが、規模や配置に齊一性がない。ピット4・3・13~9のように住居拡張等で柱の配置換えを行った可能性もある。いずれのピットも覆土に柱痕は見られず、ローム粒子が斑状に混入している。（床面）ほぼ平坦。（炉）石圓い炉が床面ほぼ中央に位置。炉石は…部抜かれている。炉内で焼土を検出。（遺物）確認面から床面直上にかけて大量に出土。とくに下層に集中している。（時期）縄文時代中期中葉。

6号住居跡（散石住居跡）（第6図・第17図）

（位置）2次調査区中央部西側に所在。（規模）散石面は長軸2.2m、短軸2.1mを測る。掘り方は長軸2.5m、短軸2.3mを測る。（形状）五角形に近似。（重複）

掘り方に上坑3基が重複している。本遺構に伴う施設とは考えにくい。(敷石面) ほぼ全面に扁平な河原石を敷設している。敷設された石の総重量は約203kgである。炉北側には敷石がないかわりに床面直下より5~10mm程度の砂利が検出された。砂利は炉跡側を短辺とする台形のような範囲内に散き詰められており、台形の各辺は5~8cmの小石で縁取られていた。同サイズの小石は敷石部の外周からも検出された。また炉跡奥に敷石が立っている箇所がある。一見石柱のように見えるが、石白体に人为的な加工痕がなく、規模・形状からも他の敷石と違はないため、耕作もしくは重機による表土剥ぎの際に動かされたものと考えられる。(周溝・ピット) 敷石を除いた後に、幅17~32cmの周溝を検出。ピットは周溝内から12本、それ以外で9本検出。いずれも小ピットであるが、敷石面の外周に位置することから、幅広の周溝とともに上層構造に関連した遺構と考えられる。

(床面) ほぼ平坦。(炉) 方形石囲い炉が床面中央よりやや北へ奥まった場所に位置。焼土は検出されていない。(遺物) 小型の深鉢形土器が1点炉跡西側で出土。正位の埋甕が1基、敷石の南端で出土。埋甕の周囲は小石で縁取られていた。(時期) 繩文時代中期後半。

7号住居跡 (第6図・第17図・第18図)

(位置) 2次調査区北部西端に所在。(規模) 西壁半分以上が調査区外のため不明。(形状) 隅丸方形(重複) 東壁で1~6号土坑と重複。南壁全体が溝状の遺構と推定により壊されている。(ピット) 浅い小ピット多数検出。柱穴配置は不明。(床面) ほぼ平坦。

(炉) なし。(遺物) 住居中央の覆土下層にまとまって出土。(時期) 繩文時代前期前半。

8号住居跡 (第7図・第19図)

(位置) 2次調査区南部西側に所在。(規模) 南壁側半分以上が壊乱等により壊されており不明。(形状) 不整円形(重複) 7号土坑・8号土坑。(ピット) 浅い小ピット多数検出。柱穴配置は不明。(床面) ほぼ平坦。(炉) 方形石囲い炉が床面ほぼ中央に位置。

(遺物) 住居中央の覆土中層から下層にまとまって出土。

(時期) 繩文時代中期後半。

9・10号住居跡 (第7図・第19図・第20図)

(位置) 2次調査区北部東側に所在。(規模) 不明。(形状) 不整円形(重複) 遺構確認面の状況及びサブトレンド内の断面観察から9号住居跡の方が新しい遺構と判断されている。10号住居跡は南端で9号土坑と重複。

(ピット) 柱穴配置不明。2軒分としてはやや多い。

(床面) 広い範囲にトレンドチャ―が及んでいる。ほぼ平坦。(炉) 地床炉状の遺構が床面ほぼ中央に位置。

(遺物) 覆土下層に散見される程度。正位の埋甕が1基9号住の出入り口と思われる位置で出土。(時期) 繩文時代中期後半。

2) 土坑 (第8図)

2次調査区の中央より北側、とくに9・10号住居跡の周辺で多数の土坑が検出された。規模・形状は様々であり、小規模な土坑は柱穴なのか根穴なのか判別がつかない。そのため本報告では住居跡に重複している土坑のみ示し、他は以下の一覧表にまとめた。遺物は繩文時代前期から中期の上器片が出土している。しかし、いざれも小破片であり、上坑の時期を積極的に決定づける資料とは言い難いため図示はしなかった。

第1表 土坑一覧表

土坑番号	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)	出土した土器
1号土坑	111	80	61.2	前期~中期 3点
2号土坑	90	84	47.2	前期~中期 12点
3号土坑	84	50	36.4	前期~中期 2点
4号土坑	114	96	23.5	なし
5号土坑	88	84	21.5	なし
6号土坑	94	88	26.4	なし
7号土坑	232	128	29.8	なし
8号土坑	110	62	34.1	なし
9号土坑	124	114	39.3	前期~中期 2点
10号土坑	102	64	23	なし
11号土坑	41	30	7.8	なし
12号土坑	72	37	19.4	なし
13号土坑	54	39	31.2	中期 1点
14号土坑	31	15	29.7	なし
15号土坑	21	18	7.8	なし
16号土坑	39	21	8.8	前期~中期 2点
17号土坑	8	7	8.9	前期 1点
18号土坑	12	11	22.7	なし
19号土坑	51	29	20.6	前期 1点
20号土坑	130	92	26.7	前期~中期 7点
21号土坑	27	22	8.9	なし
22号土坑	12	11	9.2	なし
23号土坑	20	11	8.7	なし
24号土坑	22	19	9.1	なし
25号土坑	76	42	8.1	前期~中期 3点
26号土坑	15	14	20.7	なし
27号土坑	34	31	20.7	なし
28号土坑	30	18	19.2	なし
29号土坑	61	50	7	前期 1点
30号土坑	67	54	39.1	前期~中期 2点
31号土坑	70	32	19.5	中期 2点
32号土坑	115	92	19.1	前期~中期 6点
33号土坑	66	62	16.3	なし
34号土坑	53	49	46.7	なし
35号土坑	25	20	16.5	なし
36号土坑	38	36	41.7	なし
37号土坑	30	28	7.8	なし
38号土坑	40	30	31.1	なし
39号土坑	28	19	7.8	なし
40号土坑	30	28	7.8	なし
41号土坑	30	28	7.8	なし
42号土坑	30	28	7.8	なし
43号土坑	30	28	7.8	なし
44号土坑	30	28	7.8	なし

(※土器の詳細な時期は第5表参照)

(3) 遺構外の出土遺物 (第20図・第21図)

遺構外からは縄文時代前期前半・中期中葉を中心にして遺物が出土している。ただし、調査地の上層は耕作等によりかなり動かされているため、本米は住居跡や土坑の覆土上層部に存在した遺物も相当量含んでいると考えられる。特殊な遺物として第20図3の台形土器や第22図28の小型石壙が挙げられる。

第4章 調査の成果と課題

今回の調査では、縄文時代の堅穴住居跡が10軒発見され、うち1軒は敷石住居跡であった。1次で検出された住居跡は攪乱が著しく、遺物の遺存状況も良くなかったが、2次の住居跡からは器形復元の可能な土器が比較的まとまって出土した。各住居の時間的な繋がりこそ断続的であるが、当該地における縄文時代前期前半から中期後半の集落の広がりやその社会構造を知る上で絶好の資料を提示できたと思う。ここではその成果と課題の一部を取り上げ、今後の研究の一助としたい。

(1) 縄文時代前期前半の土器について

前期前半の土器は1,196点出土した。武川町内でも該期の土器がこれほどまとまって発見されたのは初である。しかし、ほとんどが10~20gの小破片であるのに加え無文の織維上器が大半であったため、型式学的な分析は非常に困難であった。無文という特徴だけとすれば中越式土器との捉えることができるが、基本的に中越式土器の胎土には織維を含まない。中越式が本地域で在地化して織維が混ぜられたとも考えられるが、他系統の土器が混入している可能性が十分あり検討を要するところである。神之本式土器に比定される地縄文の土器は全体的に少なく、外来系の関山式土器は僅かに混じる程度であった。

前期前半は多系統の土器が同一遺跡・遺構内で出土することが知られている。該期の人や物、情報の流れを解明する基礎的なデータとして遺跡毎に各土器系統の混在比率を示す必要を感じた。しかし、山梨県内において該期の資料は極端に少なく、個別の土器にあたると型式分類に苦しむことが多い。今後の類例増加に期待したい。

(2) 敷石住居跡について

本調査で発見された敷石住居跡は、当初堅穴が伴わないので非常に小規模な遺構であることから、用途は住居ではなく集落内のモニュメント的な構造物ではという認識もあった。しかし、埋り方より検出された周溝やピットの状況から上層構造も想定の範囲であり、あえて否応居説に立脚して本例を捉える必要はないと考える。それより本例の性格を考える上で重要なのは集落内施設の一つか、

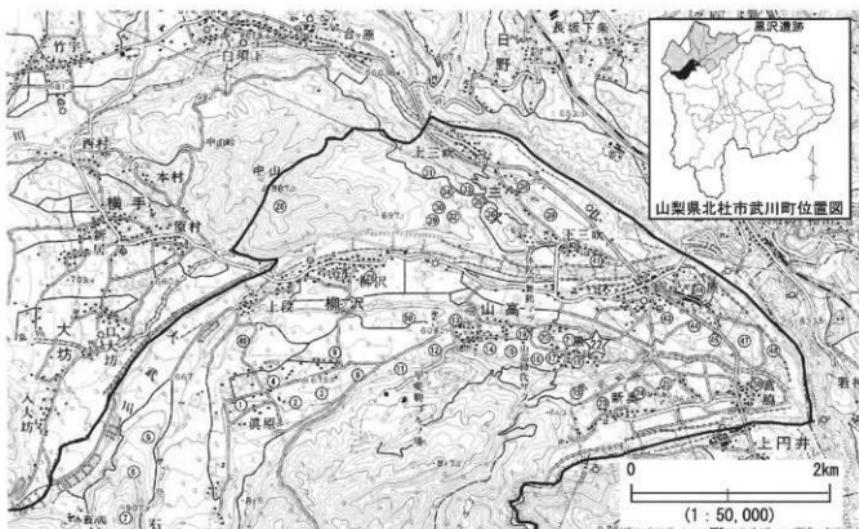
単独で存在した施設かという検討である。今回の調査で同年代の住居が2軒検出されたが、いずれの住居も施設の時期がほぼ同時であるにすぎないとと思われ、使用時の同時性を積極的に裏付けるには至らなかった。

また本例は山梨県内でも敷石住居の出現期の一つとして注目されてきた。敷石住居の出現に関しては山本1994・佐野2003・櫛原2004などすでに多くの研究がある。山本氏は縄文時代中期後半・中部高地で発達した住居奥壁部敷石(石柱・石壙)と関東地方で発生した柄鏡形住居とが一体化して柄鏡形敷石住居が出現すると考察した。しかし、佐野氏は縄文時代中期前葉から末葉の住居内配石のあり方についてその変遷を示し、石柱・石壙が敷石住居の直系の祖形と考えるのは難しいと指摘した。また櫛原氏は中部高地では柄のない敷石住居が柄鏡形住居成立以前より存在することを指摘し、敷石住居の発生は中部高地側の流れの中で考えたいという。

石柱・石壙をもつ住居跡は武川町内の真原A遺跡でも1軒発見されている。曾利II~III式期の住居で石柱・石壙は炉跡の奥から検出され、石壙に併せ顔面付釣手土器が出土した。このような遺構と本例が果たして同じ系譜の中で語れるものだろうか。現状では遺構の規模・形態や柱穴配置の相違だけをとっても住居型式に突然変異が起きたとしか思えない。今後両者の比較検討を進め、敷石住居跡の年代的・地域的あり方に迫りたいと思う。

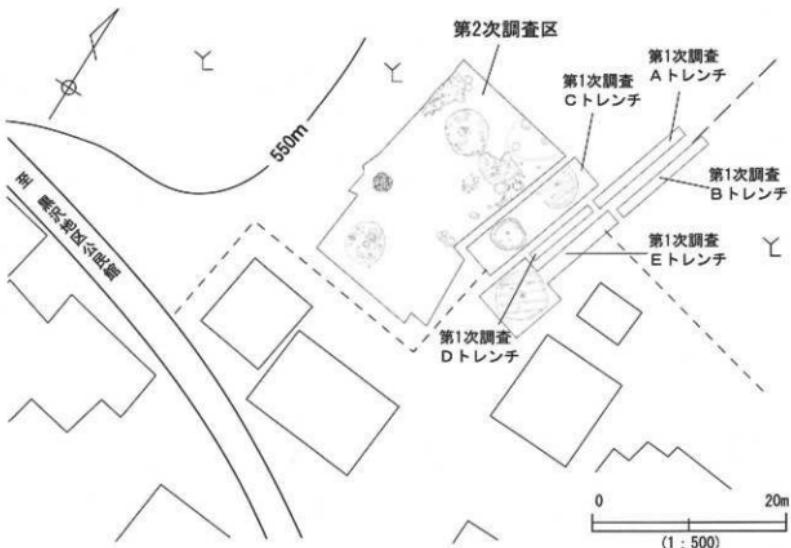
《参考文献》

- 石井寛 1998 「柄鏡形住居址・敷石住居址の成立と展開に関する考察」『縄文時代9』縄文時代文化研究会
今福利恵 2001 「土器型式による時期区分」『山梨県考古学協会誌』第12号 山梨県考古学協会
櫛原功一 2004 「敷石住居の発生・柄のない敷石住居の存在」『山梨考古学論集V』 山梨県考古学協会
佐野隆 2003 「縄文時代中期の住居内配石についてー敷石住居発生以前の住居内祭祀施設の様相ー」『山梨県考古学協会誌』第14号 山梨県考古学協会
坂口広太 2003 「武川村真原A遺跡12号住居跡の配石遺構について」『八ヶ岳考古平成15年度年報』 北巨摩市町村文化財担当者会
野崎進 2001 「縄文時代前期の土器について」『山梨県考古学協会誌』第12号 山梨県考古学協会
白洲町教育委員会 1993 『上北田遺跡』
山梨県 1999 『山梨県史』資料編2原始・古代2考古(遺構・遺物) 山梨日日新聞社
山本輝久 2002 「敷石住居の研究」 六一書房
山本輝久 2004 「柄鏡形(敷石)住居址をめぐる最近の研究動向について」『縄文時代15』縄文時代文化研究会

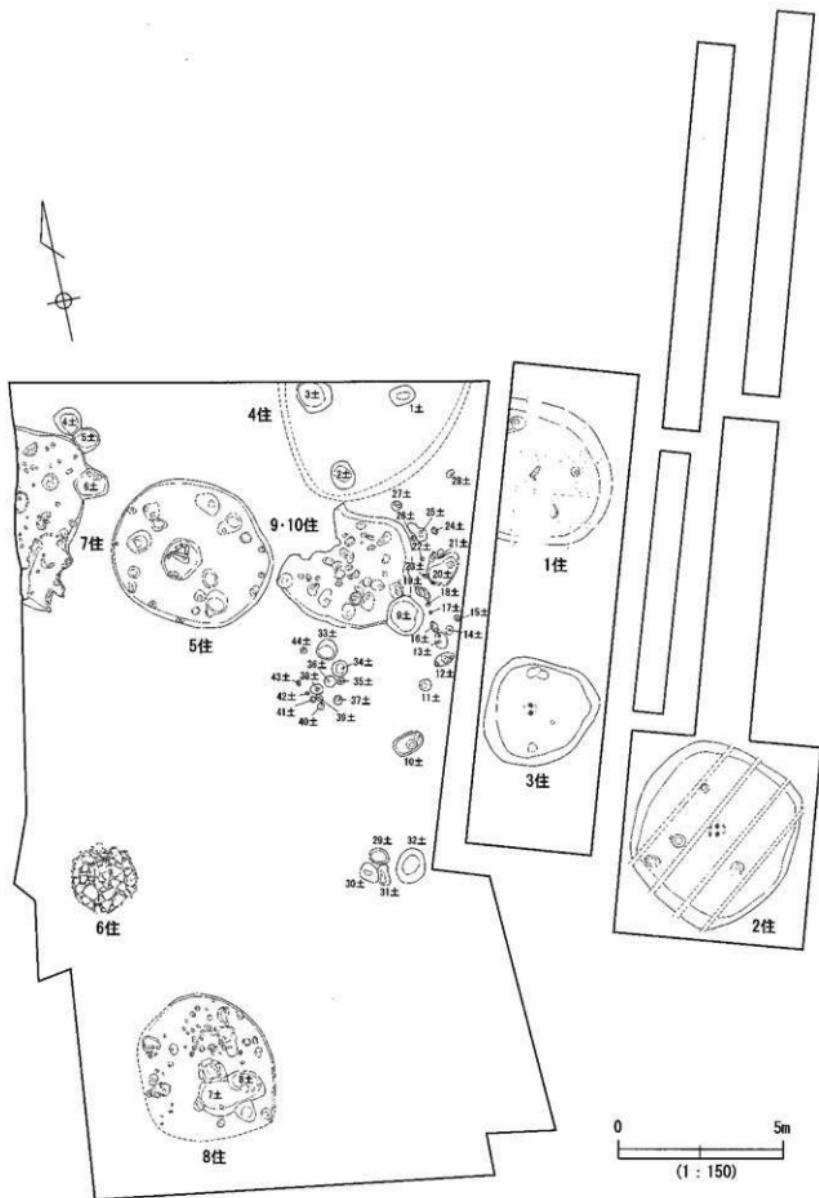


第1図 北杜市武川町遺跡分布図

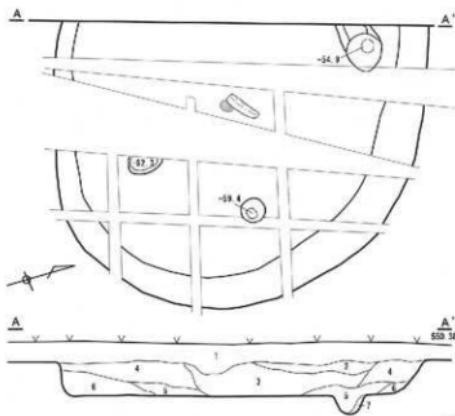
- | | | | |
|-------------|-------------------------|-------------|-------------------------|
| 1 真原 A 道路 | 集落址 (縄文中期) | 27 中村遺跡 | 散布地 (中世) |
| 2 真原 B 遺跡 | 散布地 (縄文) | 28 下町遺跡 | 散布地 (中世) |
| 3 真原 C 遺跡 | 散布地 (縄文・平安) | 29 西久保 A 遺跡 | 散布地 (中世・近世) |
| 4 真原 D 遺跡 | 散布地 (縄文・弥生) | 30 板上 A 遺跡 | 散布地 (縄文・中世・近世) |
| 5 鶴居遺跡 | 散在地 (縄文) | 31 坂上 B 遺跡 | 散布地 (中世・近世) |
| 6 城山遺跡 | 散布地 (平安) | 32 西久保 B 遺跡 | 散布地 (奈良・平安・中世・近世) |
| 7 星山古城遺跡 | 城館址 (戦国) | 33 山田 A 遺跡 | 窪跡 (近代) |
| 8 萩坂日影遺跡 | 散布地 (縄文) | 34 山田 B 遺跡 | 散布地 (中世・近世) |
| 9 下原 A 遺跡 | 散布地 (縄文) | 35 山田 C 遺跡 | 散布地 (中世・近世) |
| 10 下原 B 遺跡 | 散布地 (縄文・弥生・中世) | 36 新立工門原遺跡 | 散布地 (弥生・中世・近世) |
| 11 神林遺跡 | 散布地 (縄文・中世) | 37 富貴野遺跡 | 散布地 (縄文) |
| 12 西ノ宮遺跡 | 散布地 (縄文・中世) | 38 離崎遺跡 | 集落址 (縄文・平安・近世) |
| 13 寺久保遺跡 | 散布地 (縄文・中世・近世) | 39 宮間田遺跡 | 集落址 (平安) |
| 14 小北路遺跡 | 散布地 (縄文) | 40 尾崎 A 遺跡 | 散布地 (中世・近世) |
| 15 東原 A 遺跡 | 散布地 (縄文・中世) | 41 尾崎 B 遺跡 | 散布地 (平安) |
| 16 東原 B 遺跡 | 集落址 (縄文中期) | 42 堂寺寺遺跡 | 散布地 (中世・近世) |
| 17 実原 B 遺跡 | 散布地 (縄文草創期・中期・奈良・平安・中世) | 43 西原 A 遺跡 | 散布地 (中世・近世) |
| 18 小路遺跡 | 散布地 (中世・近世) | 44 西原 B 遺跡 | 散布地 (中世・近世) |
| 19 山高遺跡 | 散布地・築跡 (縄文中期・中世・近世) | 45 北原遺跡 | 散布地 (縄文) |
| 20 実原 A 遺跡 | 集落址 (縄文前期・中期) | 46 下田中遺跡 | 散布地 (中世・近世) |
| 21 北小路遺跡 | 散布地 (縄文・中世) | 47 牧原東原遺跡 | 散布地 (縄文・中世・近世) |
| 22 黒沢遺跡 | 集落址 (縄文前期・中期・中世) | 48 ママ下遺跡 | 散布地 (中世・近世) |
| 23 大持原 A 遺跡 | 散布地 (縄文) | 49 街沢上原遺跡 | 散布地 (縄文・平安) |
| 24 大持原 B 遺跡 | 散布地 (平安・中世) | 50 三貴日遺跡 | 散布地 (縄文・中世) |
| 25 上原遺跡 | 散布地 (縄文・平安・中世・近世) | 51 向原遺跡 | 集落址 (縄文前・中・後期・弥生・平安・中世) |
| 26 中山寺 | 城館址 (縄文) | | |



第2図 黒沢遺跡周辺図（上）・調査区位置図（下）



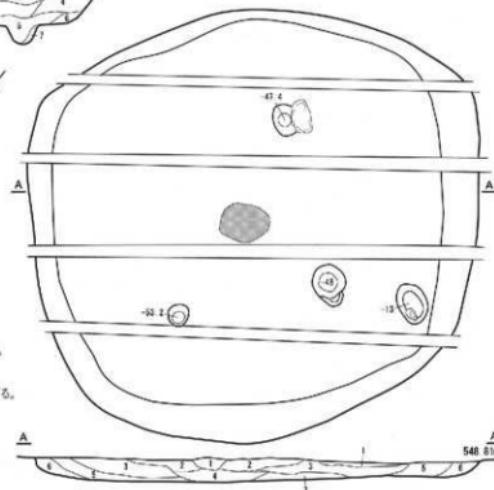
第3図 調査区全体図



1号住居跡

住居裏土 セクション

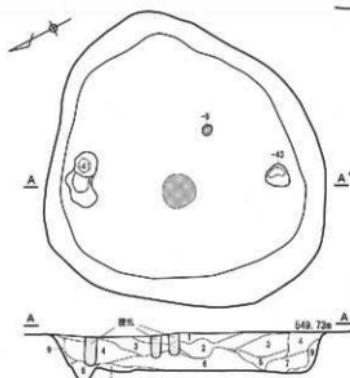
- Hue10YR2/1 黒褐色土。耕作土。
- Hue10YR3/1 黑褐色土。ローム粒子少量混入。
- Hue10YR3/3 黑褐色土。ローム粒子少量混入。
- Hue10YR3/2 黑褐色土。
- Hue10YR3/2 黑褐色土。
- Hue10YR3/6 黄褐色土に Hue10YR4/4 黄褐色土が混ざる。
- Hue10YR5/6 黄褐色土に Hue10YR3/2 黑褐色土が混ざる。



2号住居跡

住居裏土 セクション

- Hue10YR2/1 黑褐色土。耕作土。
- Hue10YR3/2 黑褐色土。ローム粒子少量混入。
- Hue10YR3/2 黑褐色土。3層よりローム粒子や多い。
- Hue10YR3/2 黑褐色土。耕土・炭化物粒子混入。
- Hue10YR3/3 黑褐色土。
- Hue10YR5/6 黄褐色土に Hue10YR4/4 黄褐色土が混ざる。
- Hue10YR4/4 黄褐色土。ロームブロック少量混入。



3号住居跡

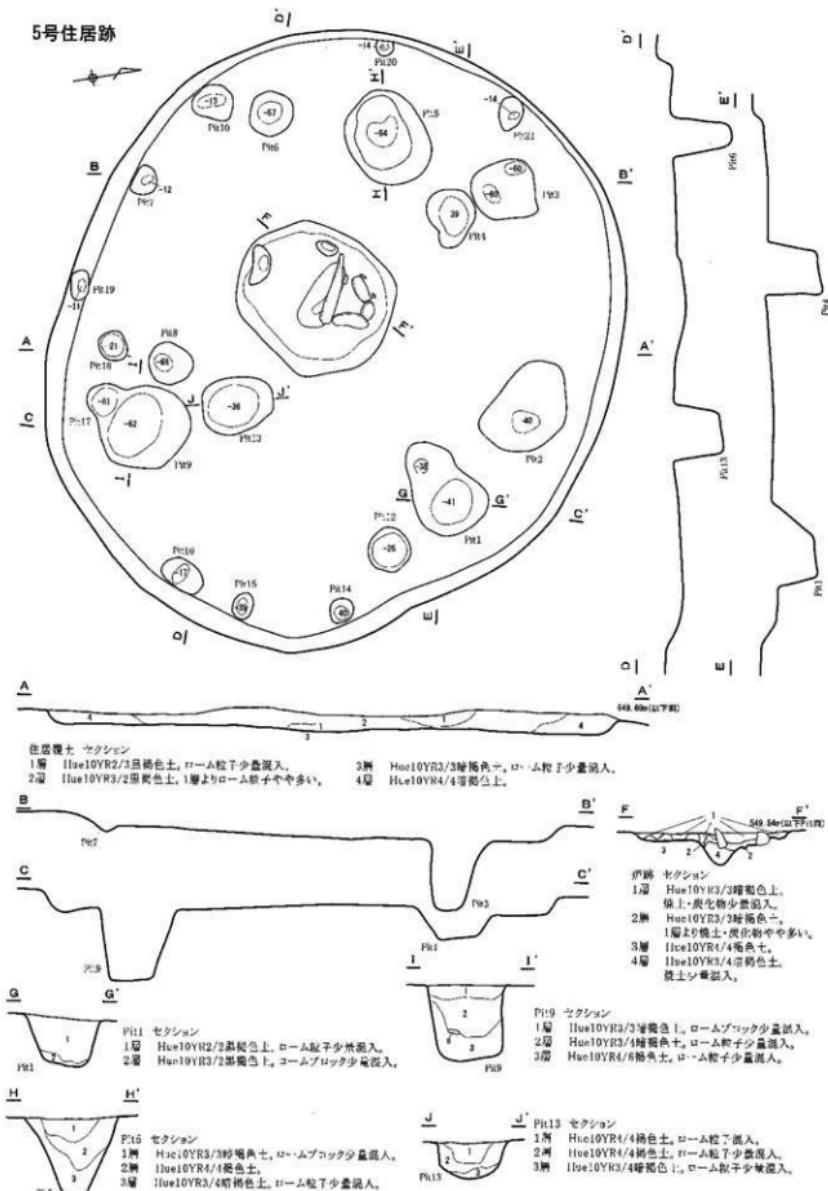
住居裏土 セクション

- Hue10YR2/1 黑褐色土。耕作土。
- Hue10YR3/2 黑褐色土。ローム粒子少量混入。
- Hue10YR3/3 黑褐色土。ローム粒子少量混入。
- Hue10YR3/3 黑褐色土。3層よりローム粒子や多い。
- Hue10YR3/4 黑褐色土。ローム粒子少量混入。
- Hue10YR3/4 黑褐色土。4層よりローム粒子や多い。
- Hue10YR4/4 黄褐色土。
- Hue10YR3/4 黄褐色土。6層よりローム粒子や多い。
- Hue10YR4/6 黄褐色土。



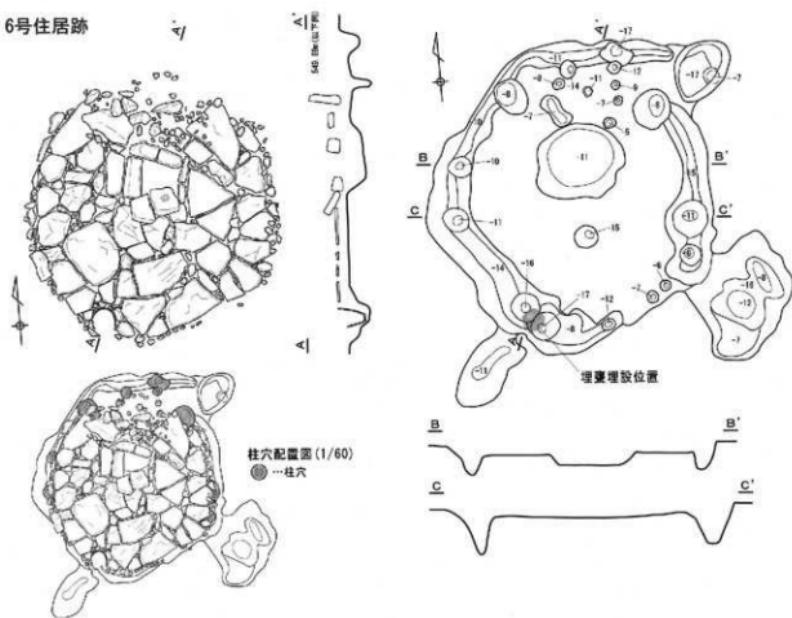
第4図 1号住居跡・2号住居跡・3号住居跡 (1/60)

5号住居跡

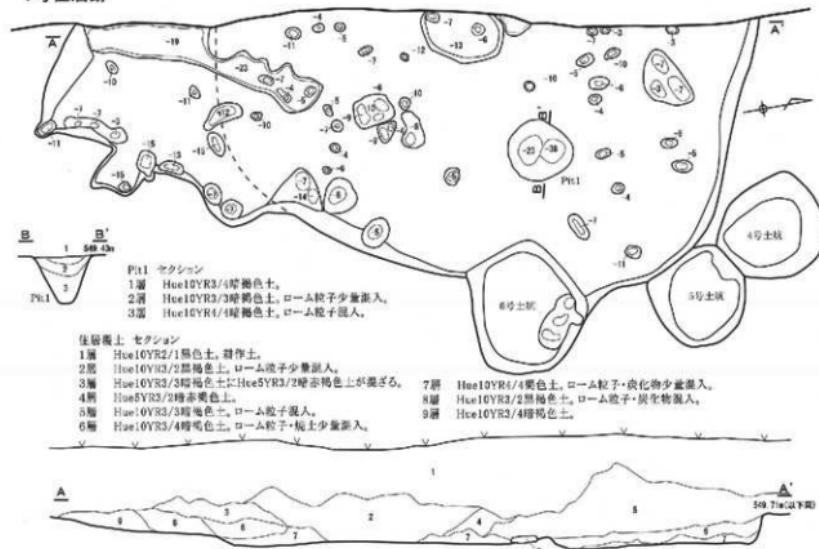


第5図 5号住居跡 (1/40)

6号住居跡

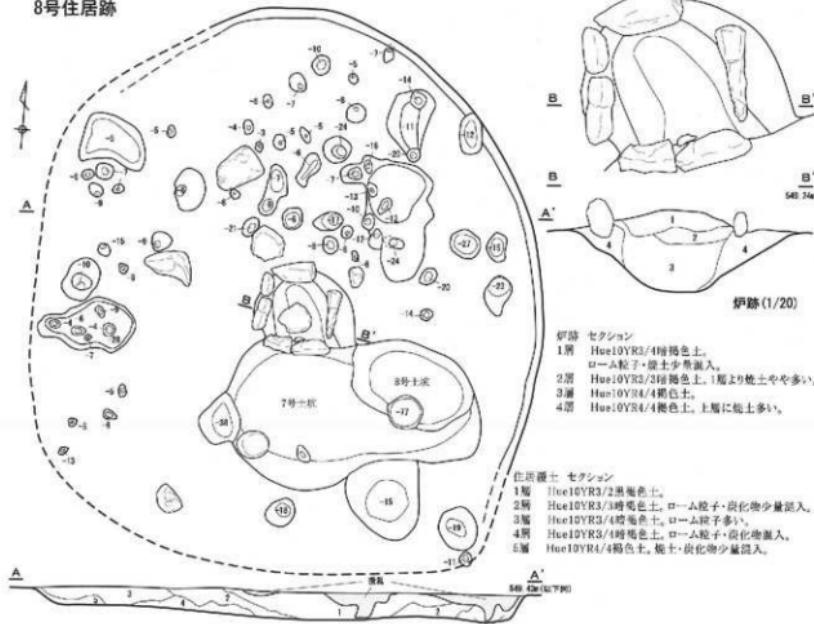


7号住居跡

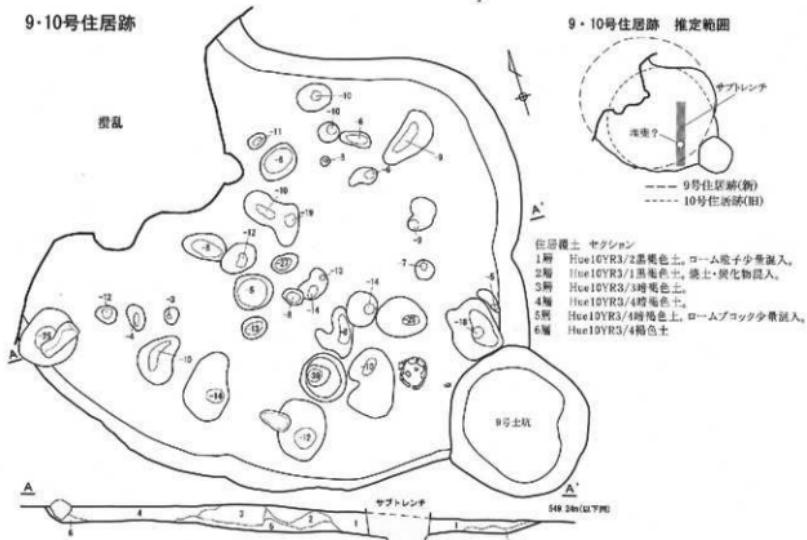


第6図 6号住居跡・7号住居跡 (1/40)

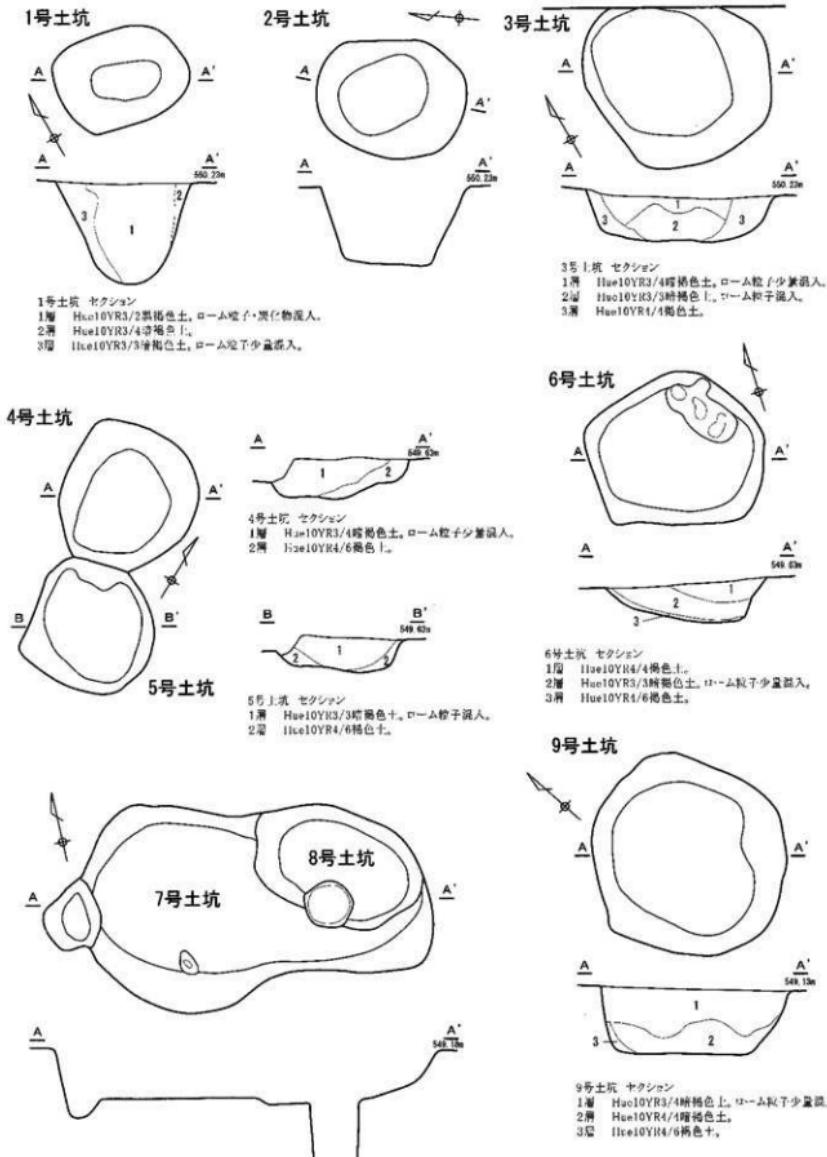
8号住居跡



9・10号住居跡

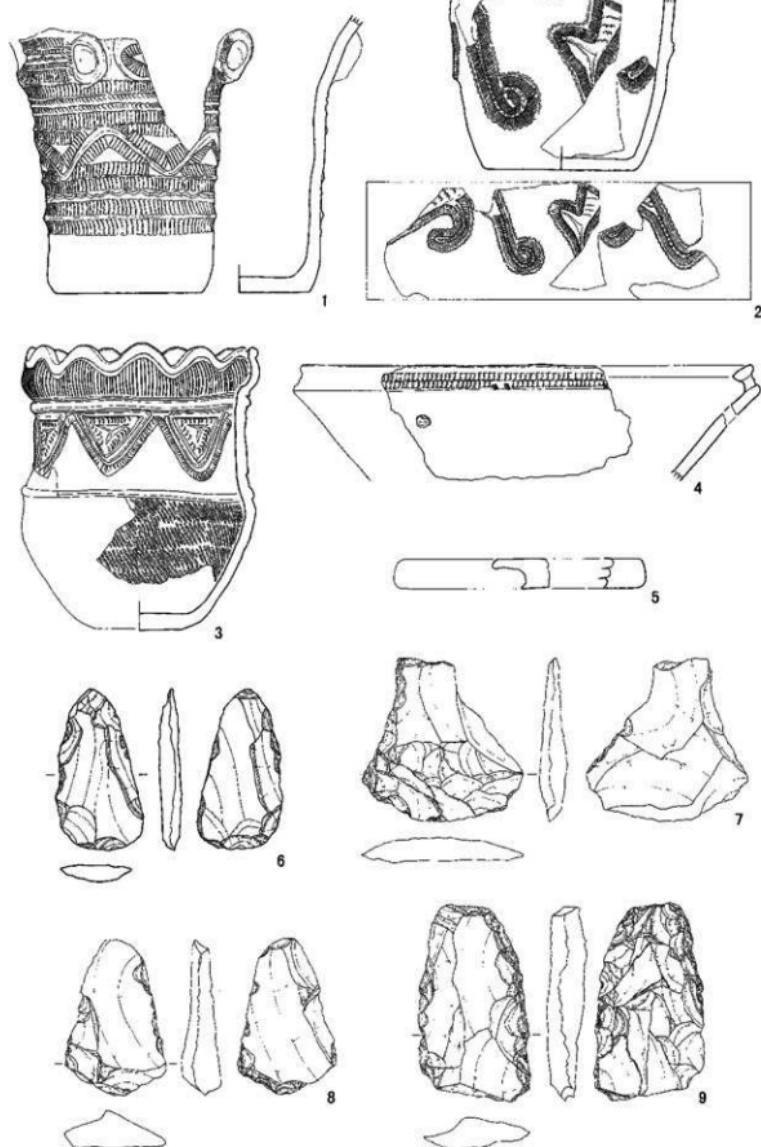


第7図 8号住居跡・9・10号住居跡 (1/40)



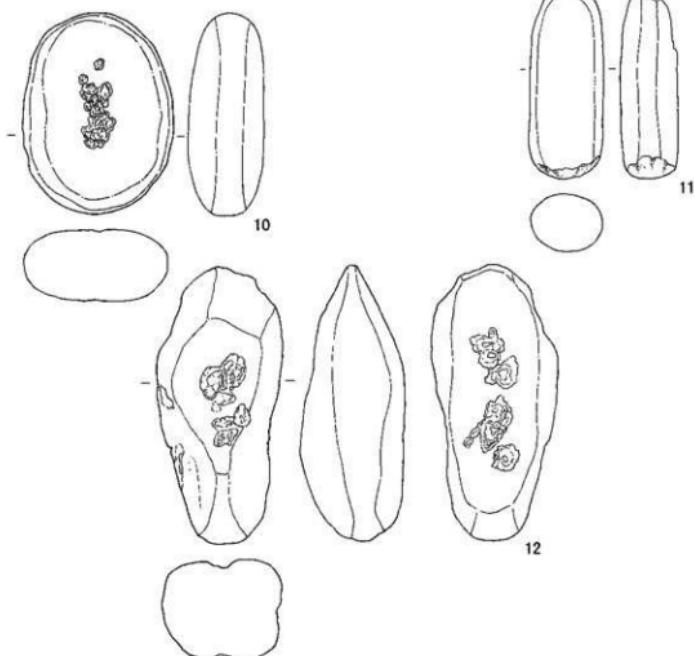
第8図 1～9号土坑 (1/30)

1号住居跡

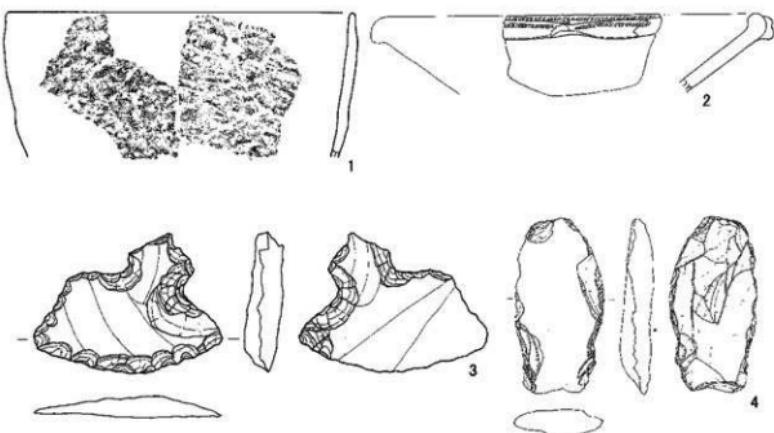


第9図 1号住居跡出土遺物 (1/4、6~9 1/3)

1号住居跡

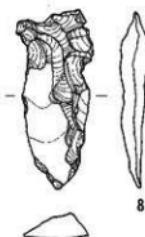
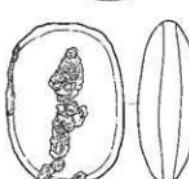
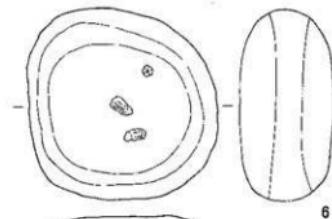
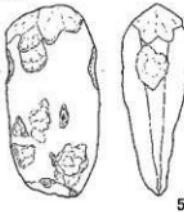


2号住居跡

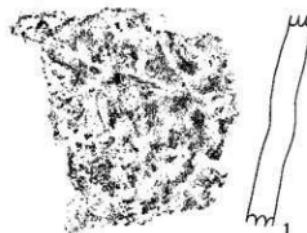


第10図 1号住居跡・2号住居跡出土遺物 (1住:1/3 2住:1/4、3 1/1、4 1/3)

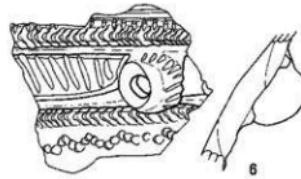
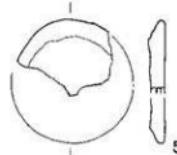
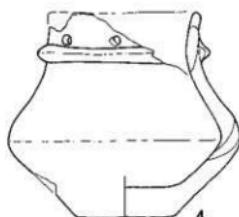
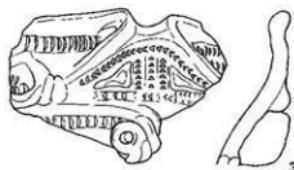
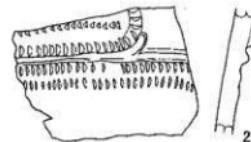
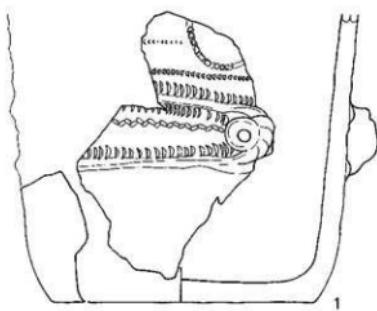
2号住居跡



3号住居跡

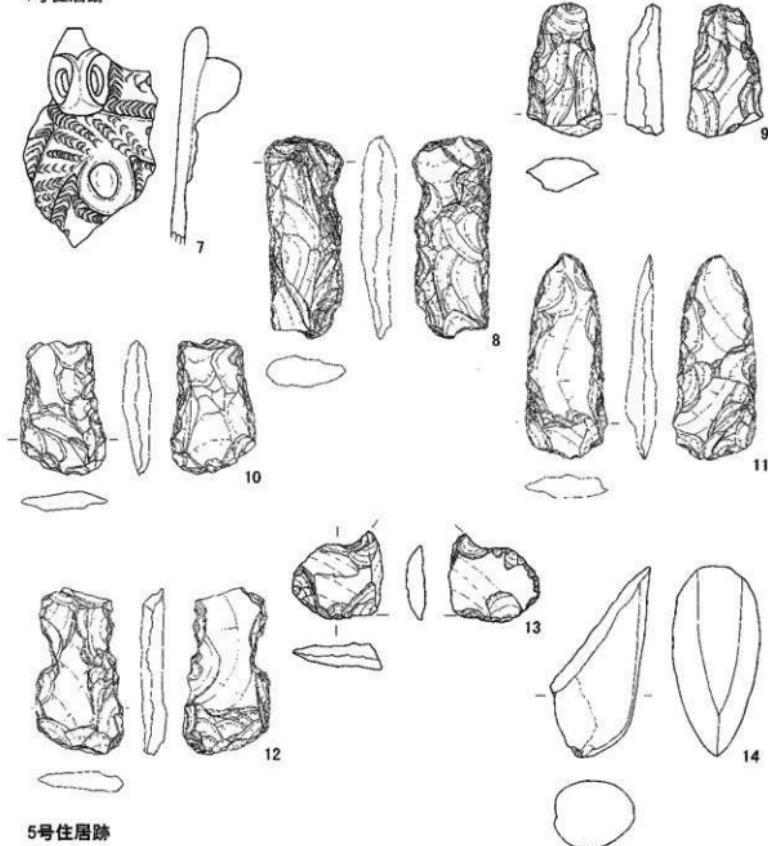


4号住居跡

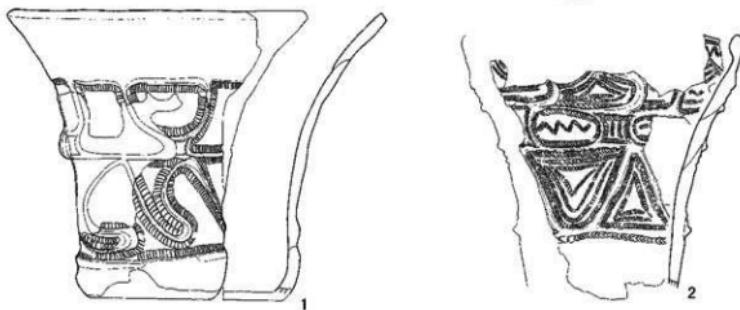


第11図 2号住居跡・3号住居跡・4号住居跡出土遺物
(2住:1/3、5 1/2、8 1/1 3住:1/2 4住:1/2)

4号住居跡

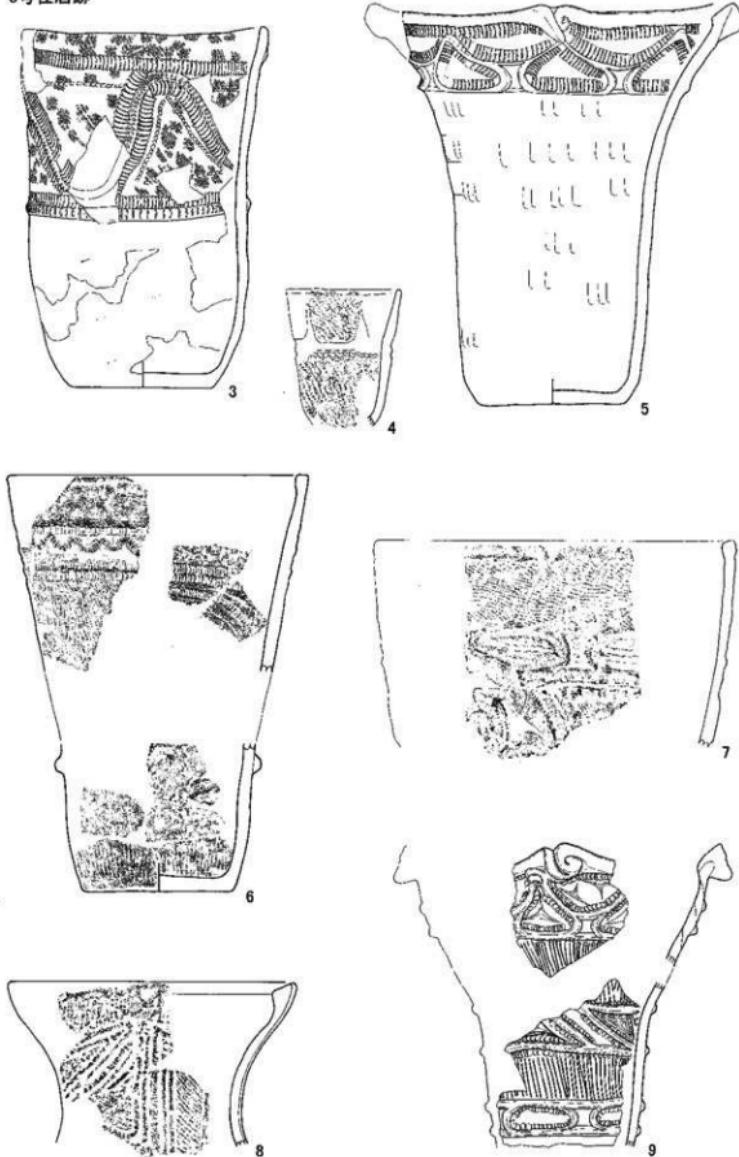


5号住居跡



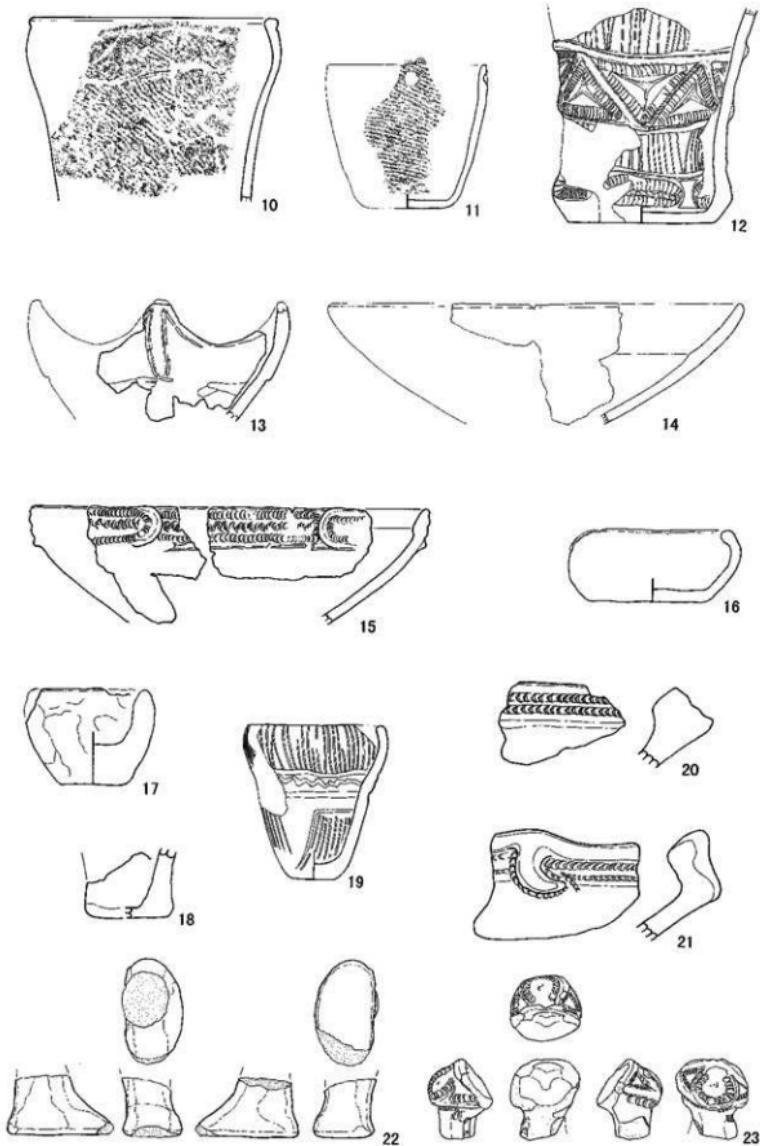
第12図 4号住居跡・5号住居跡出土遺物 (4住:1/2、8・10~12 1/3 5住:1/4)

5号住居跡



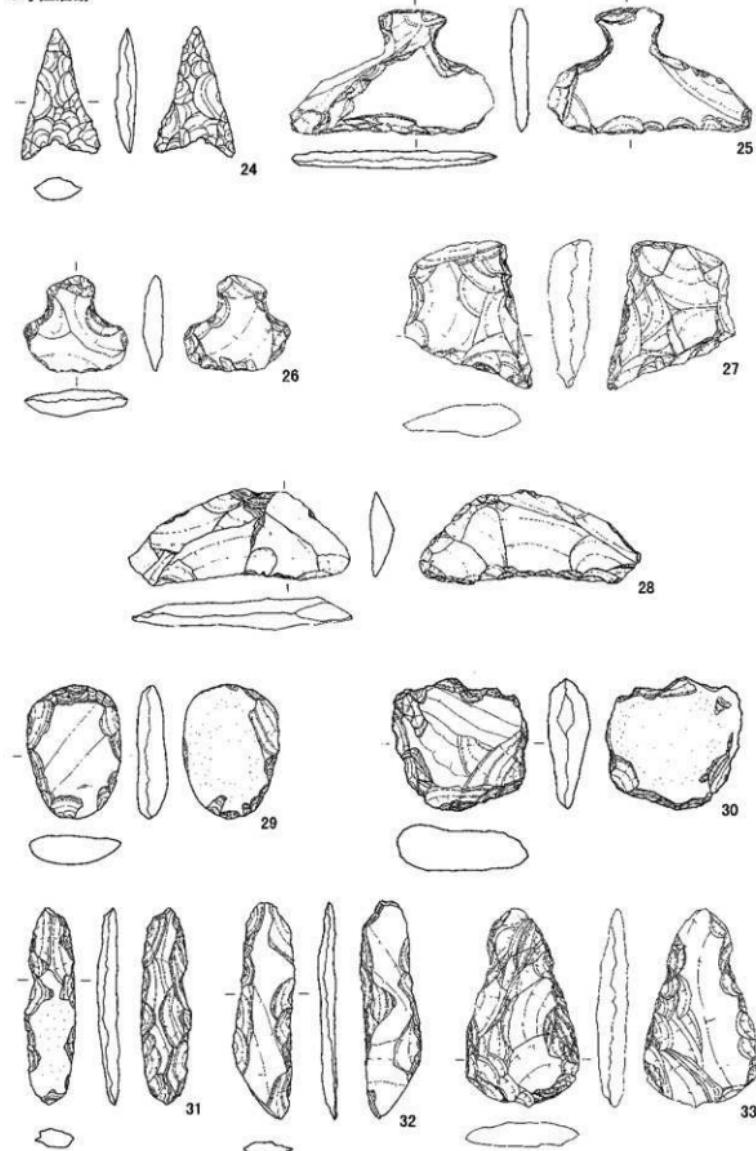
第13図 5号住居跡出土遺物 (1/4)

5号住居跡



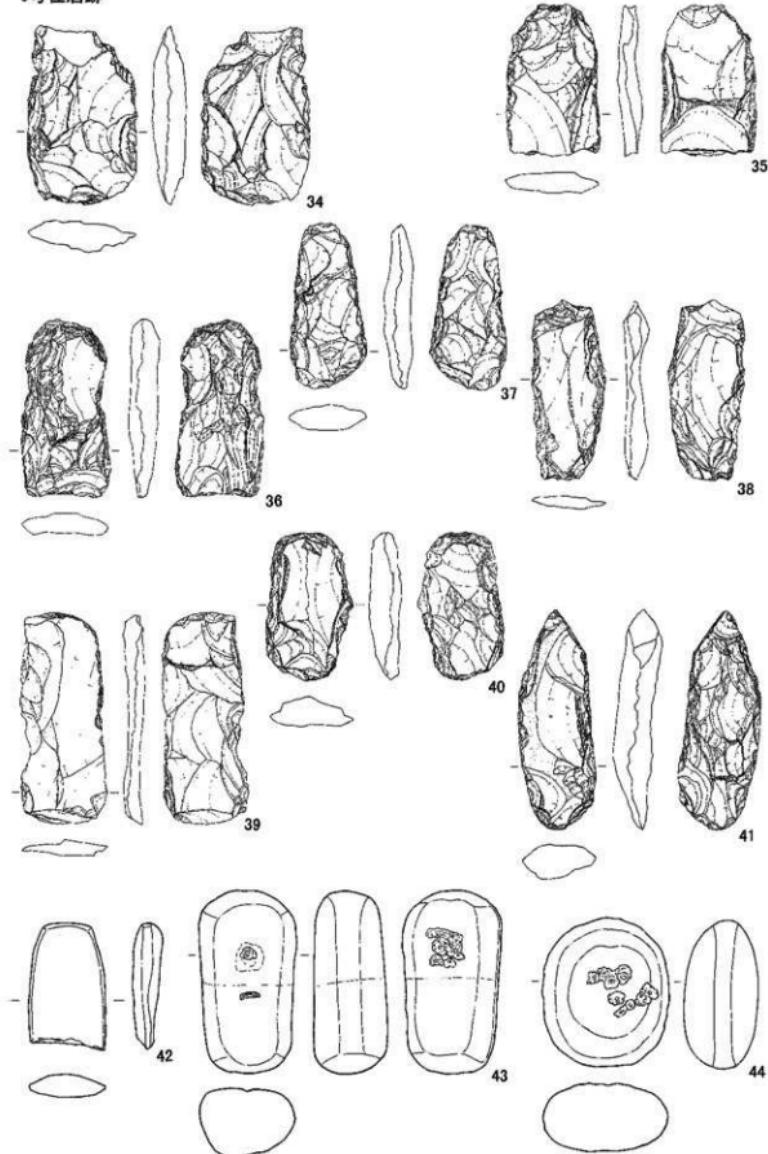
第14図 5号住居跡出土遺物 (1/4、17~21 1/2、22~23 1/3)

5号住居跡



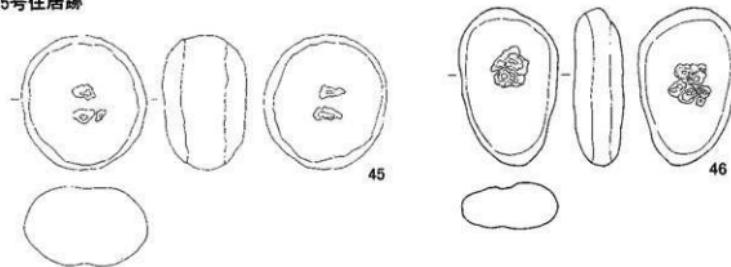
第15図 5号住居跡出土遺物 (1/3、24 1/1、31・32 1/2)

5号住居跡

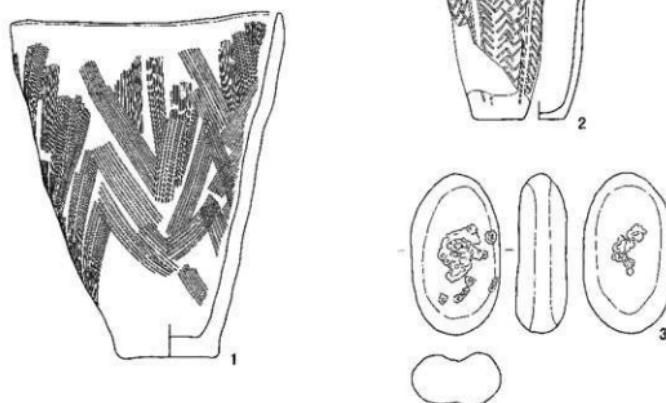


第16図 5号住居跡出土遺物 (1/3、42 1/2)

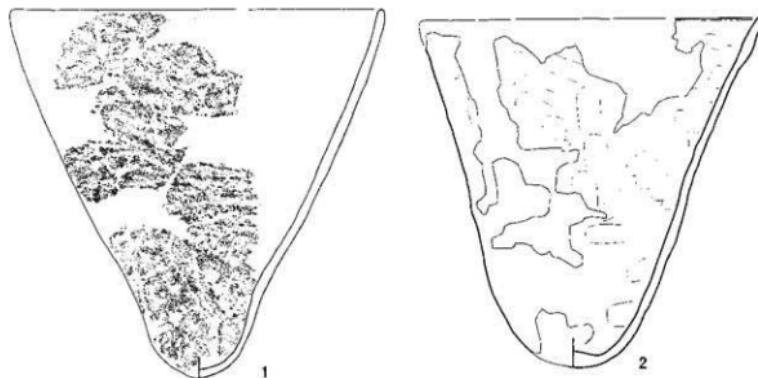
5号住居跡



6号住居跡

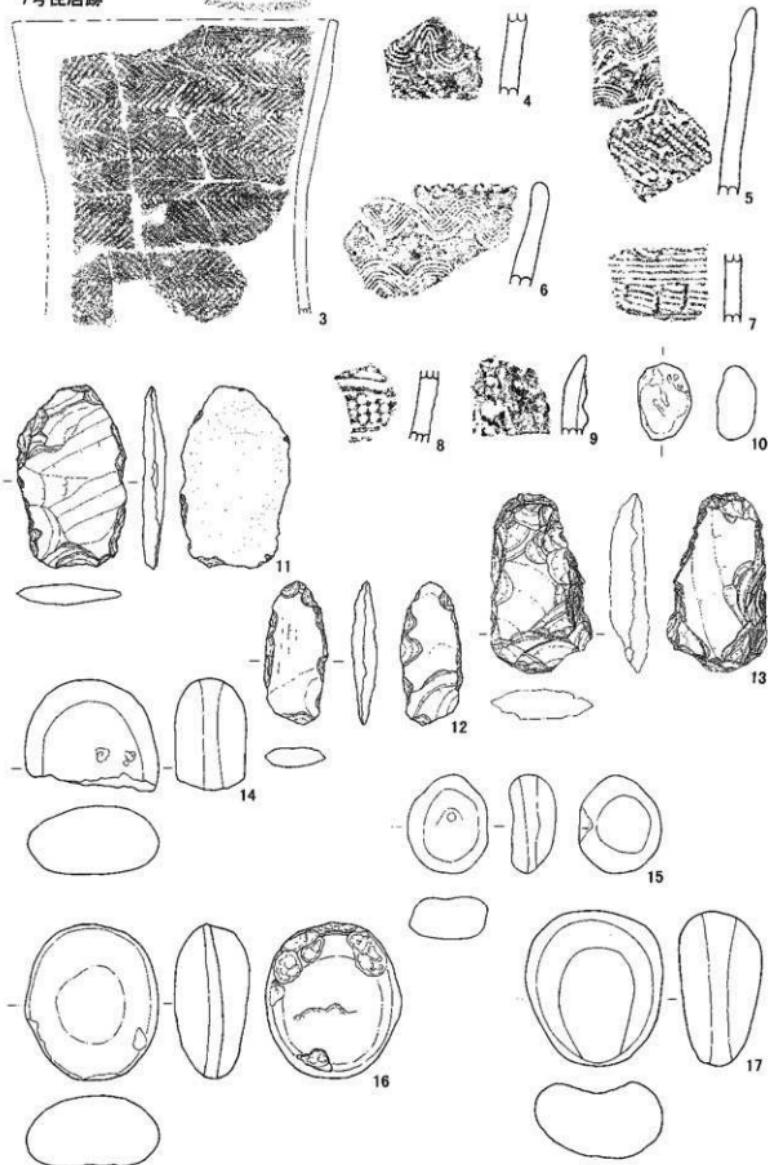


7号住居跡



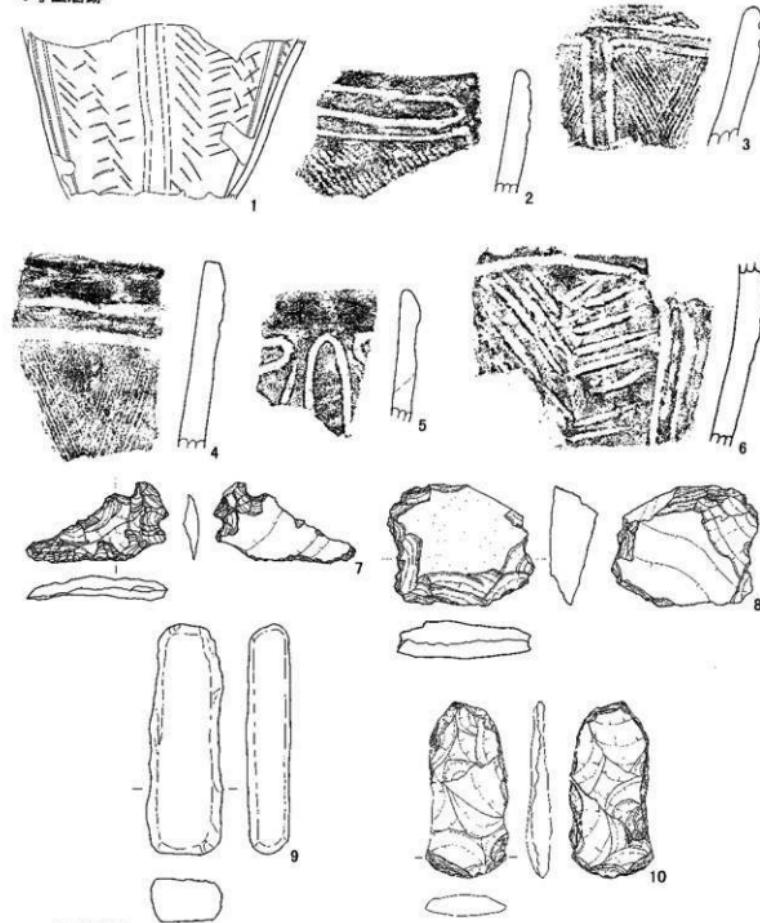
第17図 5号住居跡・6号住居跡・7号住居跡出土遺物
(5住:1/3、6住:1/4、3 1/3 7住:1/4)

7号住居跡

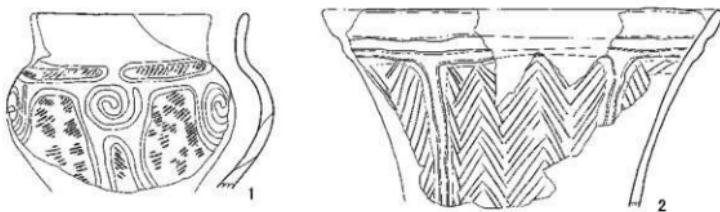


第18図 7号住居跡出土遺物 (1/2、3 1/4、11+13+14+16+17 1/3)

8号住居跡

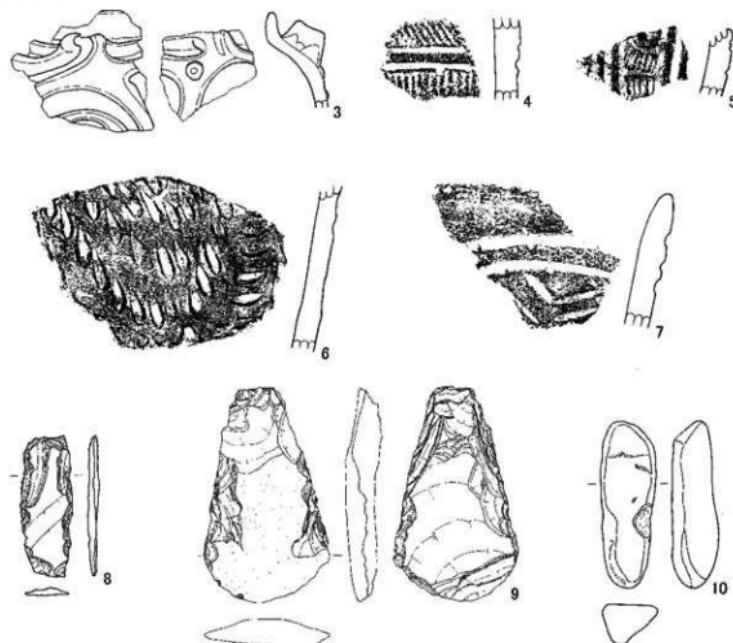


9・10号住居跡

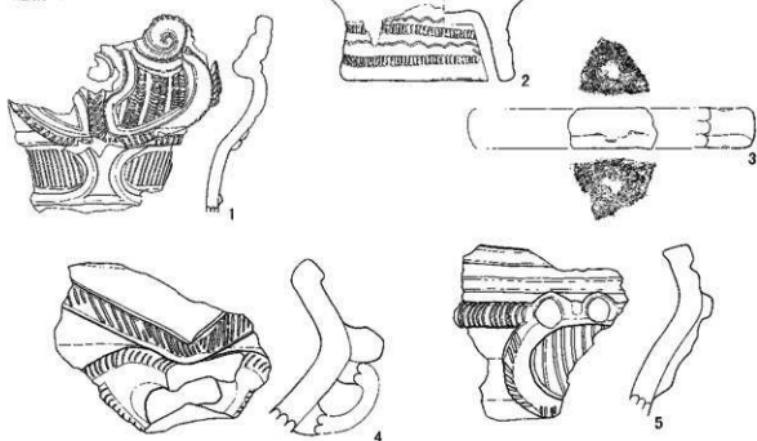


第19図 8号住居跡・9・10号住居跡出土遺物 (8住:1/2、1 1/4、8・10 1/3 9住:1/4)

9・10号住居跡

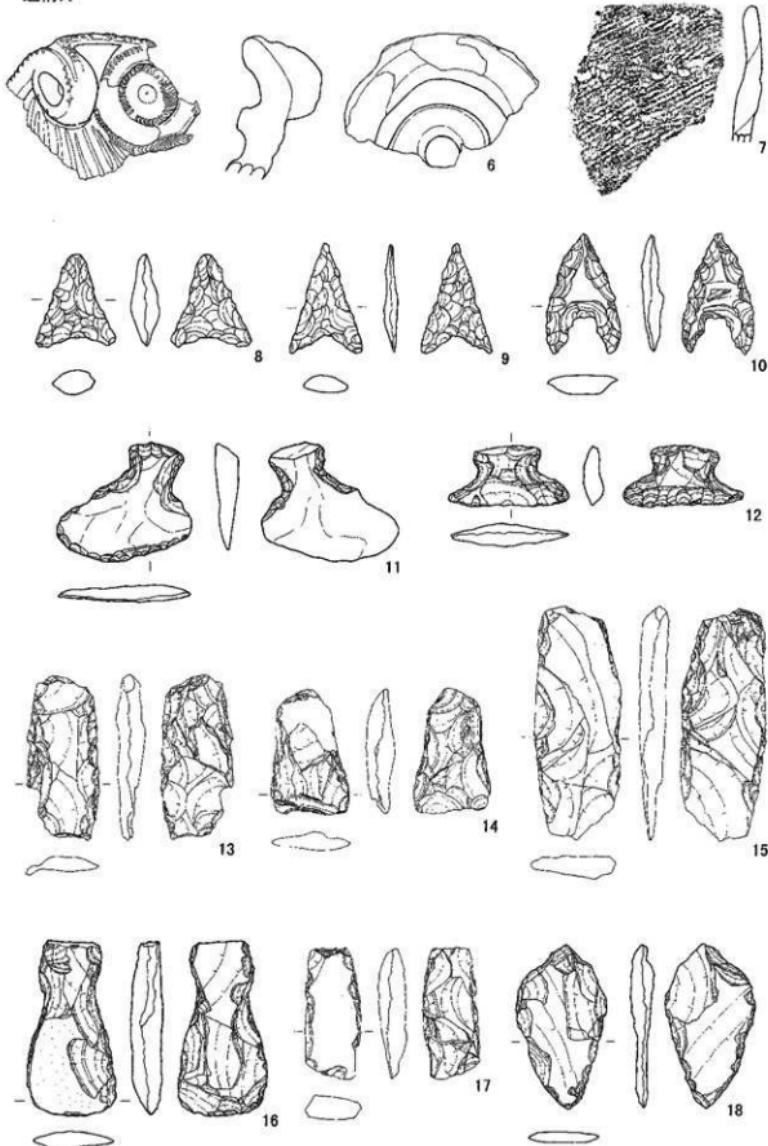


遺構外



第20図 9・10号住居跡・遺構外出土遺物 (9・10住 : 1/2、 8~10 1/3 遺構外 : 1/4、 4~5 1/2)

遺構外



第21図 遺構外出土遺物 (1/2、8~10 1/1、13~17 1/3)

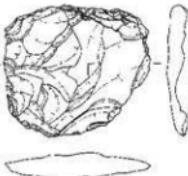
遺構外



19



20



21



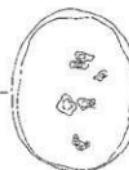
23



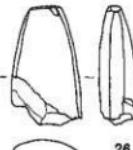
22



24



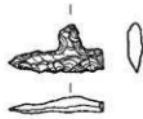
25



26



27



28

第22図 遺構外出土遺物 (1/3、28 1/1)

第3表 石器類縦縦表

版面	番号	性別	年齢	出土地點	標準石器レベルとの比較度数(cm)	器種	最大長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	G標	残存(%)	重量(g)	備考
第9回	6	0.07	1才位	-	-4.5	打撲 or 滑刃	10.15	5.3	1.3	ホルンエスカ	100	60	
第9回	7	1才位	-	3	-	打撲 or 滑刃	10.4	1.7	1.7	滑刃	100	120	
第9回	8	0.92	1才位	11	-	打撲 or 滑刃	9.9	6.2	2.3	滑刃	100	100	
第9回	9	10.0	1才位	11	-	打撲石斧	12.5	7.8	2.3	滑刃	80	79	標準石器に凹み有
第10回	10	1才位	-	2.2	打撲石斧	12.8	9	4.55	ホルンエスカ	100	779	標準石器に凹み有	
第10回	11	1才位	-	11.5	打撲石斧	12.2	4.6	3.7	滑刃	80	349	標準石器に凹み有	
第10回	12	11.9	1才位	10.4	打撲石斧	17.4	7.9	6.5	ホルンエスカ	100	985	表面削り面に凹み有	
第10回	3	21.0	2才位	7.5	打撲石斧	3	4	0.7	チヤード	95	5.6		
第10回	4	2才位	2才位	-	打撲石斧	11.1	5.5	2	滑刃	80	129	標準石器の範囲	
第11回	5	2才位	-	-	磨石	8.2	3.65	2.6	滑刃	100	130	標準石器の範囲	
第11回	6	22.5	2才位	8.1	磨石	12.1	11.9	3.5	安山岩	100	1220	ガラフサ有	
第11回	7	22.9	2才位	2.2	磨石	10.25	7.4	3.5	安山岩	100	421	表面削り面に凹み有	
第11回	8	22.4	2才位	1.5	滑刃	3.8	1.4	0.55	黒曜石	100	3.2		
第12回	8	25.9	4才位	-	打撲石斧	12.9	4.9	2.1	滑刃	100	156		
第12回	9	26.0	4才位	-	打撲石斧	5.6	3.1	1.6	滑刃	90	20		
第12回	10	860	4才位	-	打撲石斧	8.5	5.2	1.7	セラミ	70	79		
第12回	11	34.2	4才位	-	打撲石斧	1.3	5.1	1.9	滑刃	100	118		
第12回	12	33.6	4才位	-	打撲石斧	11.5	5.2	1.4	滑刃	100	91		
第12回	13	33.8	4才位	-	打撲石斧	3.6	3.7	0.8	チヤード	49	13		
第12回	14	34.0	1才位	-	磨石	8.1	3.7	3.1	滑刃	20	113		
第12回	24	28.99	5才位	-	石繩	2.8	1.7	0.4	滑刃	100	100		
第12回	25	28.14	5才位	-2.7	人頭顎骨	8	12.3	1.1	門脛	100	106		
第12回	26	28.24	5才位	-	人頭顎骨	6.1	6.4	1.5	ホルンエスカ	100	55		
第12回	27	148.65	5才位	-	洞片石器	9.4	7.3	2.6	滑刃	100	265		
第13回	28	23.89	5才位	-	打撲石斧	13.9	5.3	2	滑刃	100	125		
第13回	29	16.82	5才位	22.1	滑刃	8.1	6.0	1.9	滑刃	100	128		
第13回	30	8.65	5才位	18.7	滑刃	8.2	8.5	2.8	滑刃	100	261		
第13回	31	17.82	5才位	13.8	小形打手	8.2	2.2	0.9	門脛	100	16		
第13回	32	30.91	5才位	13.4	小形打手	9.2	2.5	0.8	滑刃	100	17		
第13回	33	31.02	5才位	15.2	打撲石斧	12.5	6.9	1.9	ホルンエスカ	100	174		
第13回	34	28.10	5才位	19.7	打撲石斧	11.3	6.7	2.1	滑刃	100	160		
第13回	35	14.72	5才位	-	打撲石斧	9.7	5.9	1.5	滑刃	70	88		
第13回	36	28.07	5才位	32.3	打撲石斧	11.3	6.5	1.7	滑刃	100	122		
第13回	37	28.18	5才位	1.5	打撲石斧	10.6	4.8	1.7	滑刃	100	94		
第13回	38	14.88	5才位	10.6	打撲石斧	11.5	4.6	1.5	滑刃	100	82		
第13回	39	29.26	5才位	13.3	打撲石斧	13.3	5.3	1.2	セラミ	100	80		
第13回	40	28.13	5才位	9.2	打撲石斧	9.3	5.2	1.9	滑刃	100	107		
第16回	41	28.38	5才位	-	打撲石斧	13.8	4.6	2.5	滑刃	95	184		
第16回	42	7.54	5才位	30.6	打撲石斧	5.1	3.2	1.2	滑刃	80	31		
第16回	43	28.01	5才位	3.5	打撲石斧	11.5	6.2	4.6	滑刃	100	563	表面削り面に凹み有	
第16回	44	23.63	5才位	-6.9	打撲石斧	8.4	8.0	4.5	滑刃	100	412	表面削り面に凹み有・ザラツク有	
第16回	45	29.00	5才位	0.4	打撲石斧	8.5	7.2	5.2	安山岩	100	422	表面削り面に凹み有・ザラツク有	
第17回	46	14.79	5才位	-	打撲石斧	9.9	6.2	3.2	安山岩	100	240	表面削り面に凹み有	
第17回	47	15.67	6才位	3.1	打撲石斧	10.1	5.6	3.2	滑刃	100	262	表面削り面に凹み有	
第18回	11	29.67	7才位	-	打撲石斧	11.3	6.8	1.5	滑刃	100	122		
第18回	12	29.22	7才位	-	打撲石斧	6.1	2	1	ホルンエスカ	40	17		
第18回	13	24.2	7才位	-	打撲石斧	11.4	6.3	2.4	滑刃	100	182		

箇号	品名	規格	出荷年月	出荷量(㌧)	出荷先レバーチの比率(%)	貯蔵場所	貯蔵方法	貯蔵期間(年)	貯蔵料	貯蔵料率(%)	貯蔵料率(%)	
第14回	14	1164	7号生	17.2	8.3	7.1	4.5	30	30	30	30	
第15回	15	2566	7号生	14.3	4.2	3.4	1.8	—	安田山	—	38	
第16回	16	1465	7号生	19.3	9.8	8.5	4.6	95	95	535	535	
第17回	17	1458	7号生	28.3	9.8	8.4	5	100	安田山	—	—	
第18回	18	2516	8号生	14.3	石墨	3.0	5.7	0.8	御所山	100	16.4	
第19回	19	2621	8号生	21.2	石墨	7.5	8.4	2.8	御所山	100	228	
第20回	20	9	3389	8号生	16.1	地炭纖	9.8	3.2	1.9	モルソンフェルス	100	117
第21回	21	10	2219	8号生	23.2	打鑿石粉刀	11.2	5.1	1.6	糠野村	100	98
第22回	22	8	—	—	小形打鑿	8.8	3.2	0.6	糠野村	100	—	
第23回	23	9	536	9-10号生	15.5	打鑿石粉	13.5	7.9	2.1	糠野村	100	24
第24回	24	10	—	—	特級	10.5	3.5	2.9	糠灰石	100	136	
第25回	25	8	2643	通條外	—	石墨	2	1.7	0.6	黒曜石	100	0.6
第26回	26	9	7-7.5号外	通條外	—	石墨	2.4	1.6	0.1	新羅石	100	1.1
第27回	27	10	2214	通條外	—	石墨	2.5	1.5	0.4	チャート	100	1.3
第28回	28	11	7-7.5号外	通條外	—	石墨	4.8	5.6	0.9	モルソンフェルス	100	23
第29回	29	12	4-5号外	通條外	—	石墨	2.4	5.1	1.0	チャート	100	11
第30回	30	13	1306	通條外	—	打鑿石粉	10.5	4.5	1.6	糠野村	70	81
第31回	31	14	2221	通條外	—	打鑿石粉	8	4.9	1.8	糠灰石	70	64
第32回	32	15	3088	通條外	—	打鑿石粉	14.75	3.5	1.6	糠野村	90	154
第33回	33	16	23	通條外	—	打鑿石粉	10.9	5.6	2.0	板根砂	100	140
第34回	34	17	1-2号外	通條外	—	打鑿石粉	8.3	3.45	1.7	糠野村	100	61
第35回	35	18	—	通條外	—	打鑿石粉	7.0	3.8	0.9	部屋内	100	18
第36回	36	19	3次	通條外	—	打鑿石粉	7.2	7.3	1.9	糠灰石	100	82
第37回	37	20	2次	通條外	—	通條	8.3	9	1.7	糠野村	100	147
第38回	38	21	4-5号外	通條外	—	打鑿石粉	10.7	5.5	1.7	糠野村	100	126
第39回	39	22	2653	通條外	—	打鑿石粉	10.2	4.6	1.2	糠野村	100	56
第40回	40	23	1次	通條外	—	打鑿石粉	11.9	4.6	1.6	糠野石	100	93
第41回	41	24	1次	通條外	—	打鑿石粉	11.1	5.7	2	糠野石	70	159
第42回	42	25	1563	通條外	—	溶石	1.35	8	5.3	安田山	100	596
第43回	43	26	1887	通條外	—	磨削石粉	7.5	4.4	2.3	糠野石	60	114
第44回	44	27	2次	通條外	—	地炭粉土	8.9	7.9	5.3	安田山	100	460
第45回	45	28	7-7.5号外	通條外	—	打鑿石粉	1.05	2	0.3	糠野石	80	0.4

第4表 土製品調査表

箇号	品名	規格	出荷先レバーチの比率(%)	貯蔵場所	貯蔵方法	貯蔵期間(年)	色調	参考	基十	セメント白・青・碧	セメント白・青・黄
第9回	5	1号生	—	竹原生	—	—	2.4	10YR5/4-7.5	—	—	—
第10回	5	47生	—	上質円盤	(5.2)	—	0.7	底部を削り付	SYR5/6-5.5	—	—
第11回	22	5号生	9.8	牛頭丸生	3.7	3.9	6.6	薄い淡青色	10YR5/4-7.5	—	—
第12回	23	5号生	2.1	上質丸生	4.9	4.1	3.8	青緑色	10YR5/4-7.5	—	—
第13回	10	2.5号生	—	地炭粉土	3.2	2.3	1.6	—	10YR5/4-7.5	—	—
第14回	3	通條料	—	地炭粉土	—	—	3.4	円錐形表面の凹凸は地盤の加熱	7.5YR5/6-6	4.4個(白・青・黄・灰)	152

第5表 遺物別十器一覧

		1位	2位	3位	4位	5位	6位	7位	8位	9位	10位	1+2	3+	9+10	1+2+3+	9+10+11+12+	16+17+18+	19+20+	21+22+	23+24+	29+30+	31+32+	33+34+	35+36+	37+
古 扇	8 118 1,006	21 .263 601	14 .2251	38 1,261	123 969	52 6,884	35 929	26 42	5 50	0 17	0 0	1 10	1 6	0 4	0 12	0 0	1 25	1 26	1 25	1 25	1 11	1 11	1 11	1 11	1 11
四 白																									
神之木																									
中 地																									
開人のみ(銀鏡面)	1 25 37																								
閉人のみ(銀鏡面)																									
施火(銀鏡面)																									
施文(銀鏡面)	4 50 24	4 183 97	4 260	4 333	3 251	2 99	4 486	3 68	2 40	1 42	1 10	2 10	1 7	1 4	1 4	1 4	1 12	1 12	1 26	1 26	1 25	1 25	1 25	1 25	1 25
小 口																									
巾 紋	75 6,750	8 476	9 112	76 3,709	76 19,914	76 3,653	76 3,667	76 2,856	76 18	76 8	76 10	76 2	76 1	76 1	76 0	76 0	76 0								
新 近	1,750 6,252 6 201	1,850 2,21 6 568	1,560 2,31 6 358	1,560 2,31 6 667	1,560 2,31 6 716	1,560 2,31 6 328	1,560 2,31 6 716	1,560 2,31 6 328																	
巻 内																									
井戸尻																									
性和II																									
鏡II																									
鏡III																									
鏡IV																									
鏡V ~ V																									
鏡VI																									
鏡の左																									
左 文	15 417	1 17	2 26	19 416	16 2,803	16 1,013	16 2,762	16 1,630	16 1,013	1 10	1 10	1 10													
下 写	385 1,385	232 1,385	9 11	46 46	355 46,1,385	22 51	51 51	51 51	51 51																
前題 or 早期	52 661	9 104	11 69	46 423	5,612 5,612	247 247	247 247																		
鏡文のみ(銀鏡面)	52 661	9 104	11 69	46 423	4,892 4,892	22 247	53 99	53 1,009	60 550	60 550	60 550														
中 世																									
近 墓																									
小 明																									
合 球	135 7,385	38 1,585	34 3,882	84 26,867	65 7,389	411 5,785	329 3,772	145 992	127 147	144 144	10 9	2 2	1 1	1 1	1 1	2 2	2 2	2 2							

第6表 遺構別石器一覧

	1件	2件	4件	5件	6件	7件	8件	9~10件	遺構外	合計
石器	1	1	2	2	1	1	2	6	11	11
石器(黒曜石以外)	0.3	0.3	1.7	1.7	1.1	1.1	4.8	4.8	7.9	7.9
遺構(1件)		1	113.0	113.0	963.0	963.0	227.0	227.0	703.0	703.0
打削石片	4	1	7	19	3	3	2	36	72	72
擦剥形石器	426.0	63.0	588.0	172.7	433.0	433.0	245.0	3502.0	7029.7	7029.7
打斧 or 斧刃	1			6				8	14	14
斧器	100.0			300.0				726.0	126.0	126.0
石器	1	1	3	1	1	1	4	4	11	11
石器(黒曜石以外)	24.0	1	48.0	571.0			272.0	293.0	128.0	128.0
磨石	6.7	6.7	13.0	2		1		1	4	4
石器	1	2	161.0	161.0			10.4	0.4	30.5	30.5
磨石	3	3	6	1	9			3	10	10
磨石	1301.0	1780.0	2578.0	262.0	2485.0			10681.0	18387.0	18387.0
凹刃	1						2		2	2
石皿							360.0		360.0	360.0
鍤器									1	1
棒状器	4								985.0	985.0
剥片石器	144.0									1
黒曜石剥片	1	2	5				322.0		322.0	322.0
黒曜石器	120.0	16.2	528.0	1		2	1023.0	2	3	10
黒曜石棒	32.0	2	14.8	14.8	1	1	620.0	2	620.0	239.0
黒曜石剥片	12	9	25	25	12	34	5	151	6	401.0
黒曜石剝片	90.2	34.5	116.1	116.1	80.3	94.0	12.4	478.9	11	916.4
黒曜石剝片	5	11	4	9	9	29	12	137	137	207
黒曜石剝片のある剥片	5.3	13.7	4.3	13.6	24.1	8.9	8.9	128.8	8	188.7
合計	16	24	25	90	6	37	74	1.4	3.7	11.7
	3445.0	20260.0	919.8	7254.9	268.1	4056.0	1564.5	1759.4	36305.4	36305.4

上段：点数 下段：重量



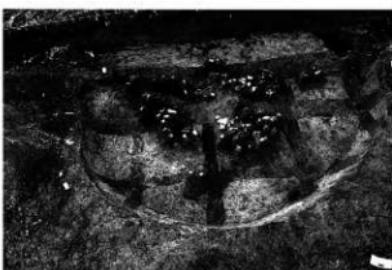
図版1 黒沢遺跡調査区遠景（東から）



図版2 黒沢遺跡調査区近景（東から）



図版3 第1次調査風景



図版4 1号住居跡遺物出土状況



図版5 1号住居跡完掘状況



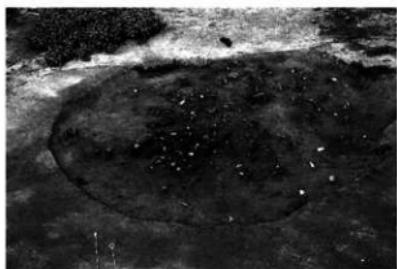
図版6 2号住居跡完掘状況



図版7 3号住居跡完掘状況



図版8 第2次調査風景



図版9 5号住居跡遺物出土状況



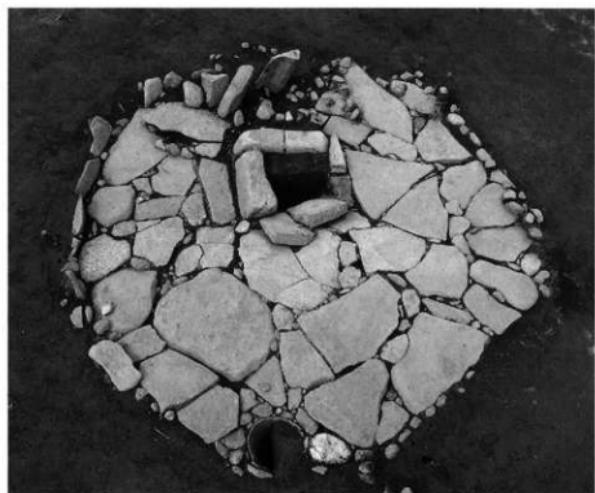
図版10 土偶左足出土状況（5号住）



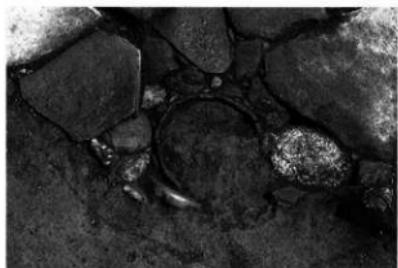
図版11 5号住居跡窯状況



図版12 5号住居跡炉跡半截状況



図版13 6号住居跡(敷石住居跡)検出状況



図版14 6号住居跡埋甕検出状況



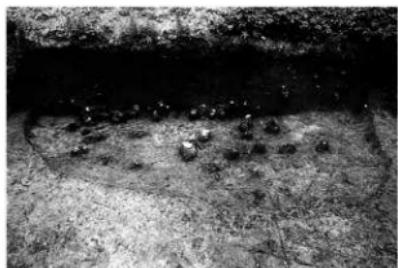
図版15 6号住居跡掘り方検出状況



图版16 6号住居跡炉跡奥砂利検出状況①



图版17 6号住居跡炉跡奥砂利検出状況②



图版18 7号住居跡遺物出土状況



图版19 7号住居跡完掘状況



图版20 8号住居跡遺物出土状況



图版21 8号住居跡完掘状況



图版22 9・10号住居跡完掘状況



图版23 壺形土器出土状況(9・10号住)



図版24 前期前半の土器①



図版25 前期前半の土器②



図版26 前期前半の土器③



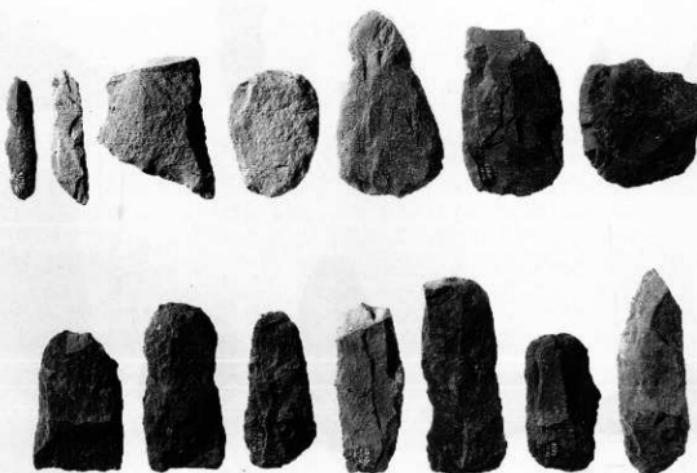
図版27 出土土製品



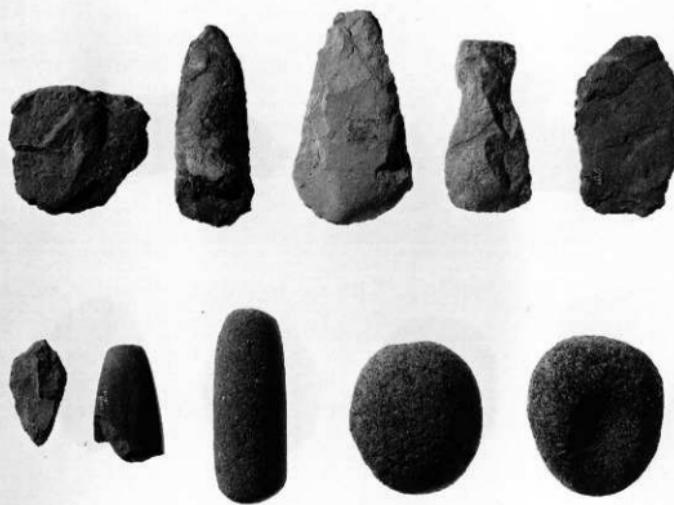
図版28 中期中葉の土器



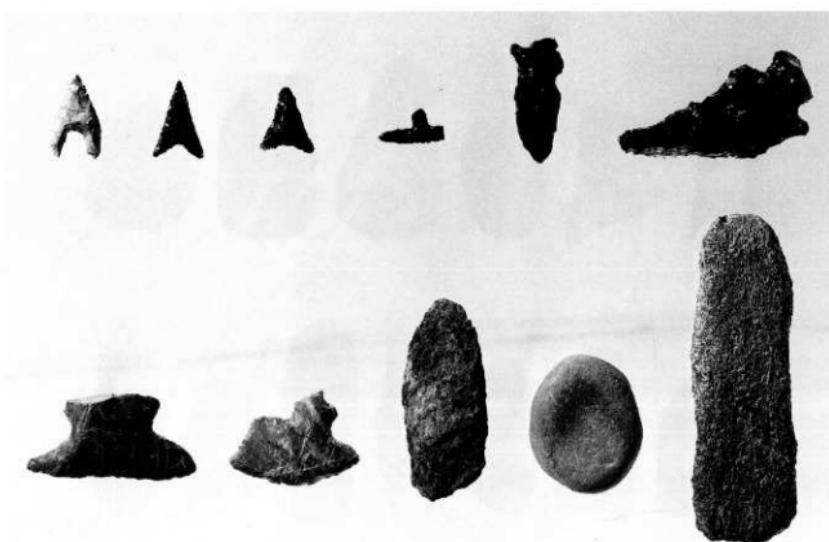
図版29 中期後半の土器



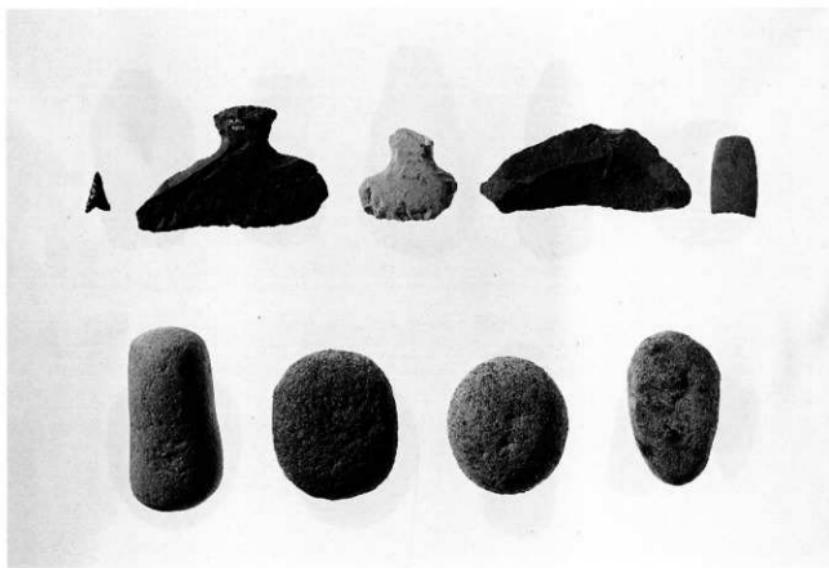
図版30 出土石器①



図版31 出土石器②



図版32 出土石器③



図版33 出土石器④

報 告 書 抄 錄

ふりがな	くろさわいせき だいいち・にじちょうさ
書名	黒沢遺跡 第1・2次調査
副書名	個人住宅建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告
巻次	
シリーズ名	北杜市埋蔵文化財発掘調査報告
シリーズ番号	第10集
編著者名	坂口広太
編集機関	北杜市教育委員会
所在地	〒408-0188 山梨県北杜市須玉町大豆生田961-1 TEL 0551-42-1373
発行年月日	西暦 2005年 3月 31日



黒沢遺跡第2次調査で発見された敷石住居跡は、現在北杜市武川教育福祉センター前庭
(北杜市武川町三吹2161-1) にて復元展示しています。 (平成15年11月1日撮影)

北杜市埋蔵文化財発掘調査報告 第10集

黒沢遺跡 第1・2次調査

個人住宅建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告

2005年3月25日 印刷

2005年3月31日 発行

編集・発行 北杜市教育委員会

〒 408-0188 山梨県北杜市須玉町大豆生田961-1

TEL 0551-42-1373

印 刷 株式会社 サンニチ印刷

〒 400-0058 山梨県甲府市宮原町608-1

TEL 0551-241-1111

